

令和 6 年度要覧



埼玉県立

歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

設置の目的・事業

埼玉県立歴史と民俗の博物館設置の目的は、資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図ることにより、教育や学術、文化の発展に寄与することにある。

その目的を達成するために、次の事業を行っている。

- 1 郷土埼玉の文化を総合的に捉え、その変遷と発展を知るための歴史及び民俗資料等について調査研究し、収集・保管し、展示する。
- 2 資料を適正に管理するとともに、文化財保存機関としての事業を行う。
- 3 資料の利用に関する必要な解説、案内、指導、助言等を行う。
- 4 資料に関する講演会、講習会、実演会、研究会等を主催し、開催を支援する。
- 5 資料に関する案内書、解説書、図録、調査報告書等を刊行し、頒布する。
- 6 他の博物館、学校その他の関係機関等と協力し、その活動を支援する。
- 7 その他当館の目的を達成するために必要な事業を行う。

もくじ

埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命	1
沿革	2
令和6年度事業計画	4
令和5年度事業報告	14
令和5年度利用者数	26
展示概要等	27
組織及び職員構成	30
施設設備	32
資料	35
利用案内	39

埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命

1 本館の使命

本館は、埼玉の歴史と民俗に関する資料を収集・保管し、総合的に調査研究することにより、埼玉の地域的特性を明らかにし、その成果を展示公開・情報発信するとともに、県民の学習活動や交流の場となることにより、県民各層の心豊かな暮らしと新たな文化の創造に寄与する博物館です。

私たちは、博物館に携わるすべてのマンパワーと資源を駆使して、埼玉の魅力をアピールするとともに、県民と協働した生涯学習を推進する中核的生涯学習施設としての役割を果たします。

- 1 県民共有の文化遺産である埼玉の歴史・民俗・美術工芸に関する資料を収集・保管・活用するとともに、調査研究して、次世代に継承します。
- 2 埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにした調査研究の成果を展示公開するとともに、国内外に情報発信します。
- 3 地域や学校と連携することにより、県民の参画と交流による学習の場として、埼玉の歴史や民俗に関する生涯学習や学校教育を支援します。
- 4 県内の博物館ネットワークの中核的施設として、市町村の歴史・民俗系の博物館を中心に、その事業や活動を支援します。
- 5 ボランティアやミュージアムクルーの育成・活用等を積極的に進めるとともに、様々な事業において、学校や地域社会の幅広い人材と広く連携・協働し、開かれた博物館活動を展開します。
- 6 埼玉の歴史や民俗に関する資料を核にして県民が集い、交流し、活動するやすらぎと潤いのある快適空間を提供します。

【 本館の経緯 】

本館は、旧県立博物館と旧県立民俗文化センターを統合し、平成18年4月1日に誕生した歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である。

母体となった2館のうち、旧県立博物館は、昭和46年11月、明治4年の埼玉県誕生から100年を記念して、人文系総合博物館として開館した。その後、昭和57年11月の県立近代美術館の開館を機に、展示室を全面的に改装して歴史系博物館に衣替えし、昭和58年11月に新装開館した。

一方、昭和55年11月に開所した旧県立民俗文化センターは、民俗芸能及び民俗工芸を調査研究の対象とする施設として全国に先駆けた存在であった。

その後、平成17年2月に策定された「県立博物館施設再編整備計画」により両館が統合され、収蔵資料はもとより長年培ってきた調査研究の成果を結集して、新たに「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として発足した。

沿革

昭和	平成
34年12月 埼玉県立博物館の設置についての請願を 県議会において採択	10年6月 インターネットのホームページ開設
43年8月 埼玉県立博物館建設基本構想を決定	11月 当館が「公共建築百選」に選定
11月 設計を(株)前川國男建築設計事務所へ委託	12年5月 拡大常設展「博物館の広場」開催
44年9月 博物館建設工事費として13億円を計上	13年11月 「太平記絵巻(巻第十)」を購入
10月 県立文化会館を廃止し、新たに県立博物館 準備事務所を県立浦和図書館内に設置	14年5月 2002 FIFA ワールドカップ™ 記念特別展 「蹴鞠-KEMARI-」開催
46年11月 埼玉県立博物館条例を制定、開館	7月 「太平記絵巻(巻第六)」を購入
47年9月 「太平記絵巻(巻第一)」を購入	11月 当館が第4回日本建築家協会25年賞受賞
12月 博物館法第11条に基づく登録博物館となる	16年10月 清子内親王殿下 お成り
51年1月 文化財保護法第48条に基づく国宝・重要文 化財の勧告・承認出品の展示館となる	18年4月 県立博物館施設再編整備計画により、埼玉 県立博物館と埼玉県立民俗文化センターを 統合、埼玉県立歴史と民俗の博物館設置
52年4月 5月5日(祝)を開館日とする	19年3月 関東地区博物館協会初の共同企画展「祈り の風景-埼玉の絵馬-」開催
55年4月 4月29日(祝)、5月3日(祝)を開館日 とする	4月 体験学習施設「ゆめ・体験ひろば」を開設
11月 埼玉県立民俗文化センター開所	20年3月 大規模改修及び耐震補強工事第I期完了
58年11月 埼玉県立博物館新装開館、開館記念特別展 「武蔵武士」開催	21年10月 交流企画展「出張博物館 in 深谷」開催 「まなびピア埼玉2009」出展
12月 国宝「太刀」(銘備前国長船住左兵衛尉景光) を購入	22年2月 大規模改修工事第II期完了
60年4月 エントランスホール、館庭等を無料開放 元日を除く国民の祝日を開館日とする	23年3月 大規模改修工事第III期完了 階段昇降機設置
平成	24年9月 天皇皇后両陛下 行幸啓
3年10月 開館20周年記念展「さいたまの名宝」 開催、記念図録出版	25年6月 秋篠宮文仁親王殿下 お成り
5年4月 国宝「短刀」(銘備州長船住景光)を購入	7月 65歳以上の観覧料減免措置廃止
6年3月 障害者対応型エレベータ設置	26年8月 入館者累計500万人達成
6年4月 高齢者(65歳以上)及び障害者等の入館料 無料化 幼児コーナー及び休憩コーナーを開設	28年2月 特別展示室非構造部材耐震対策工事完了
7年4月 義務教育終了前の者の入館料無料化	29年3月 南通用門の開放及びゆめ・体験ひろばに自 動ドアを設置
10月 「太平記絵巻(巻第七)」を購入	31年2月 Saitama Free Wi-Fi設置、運用開始
8年4月 「太平記絵巻(巻第二)」を購入	令和
	2年2月 感染症感染拡大防止のため臨時休館(～5月)
	12月 感染症感染拡大防止のため臨時休館(～3月)
	3年3月 NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄 一のまなざし～」開催

- 3年9月 開館50周年記念事業を実施（～12月）
10月 埼玉150周年及び開館50周年記念特別
展「埼玉考古50選」開催
- 4年12月 大規模改修工事第I期開始
- 5年9月 大規模改修工事第I期完了

令和6年度 事業計画

◆事業運営の基本方針

1 事業運営の方針

平成18年4月、当館は、歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として再出発して以来、その使命を果たすべく取り組んできた。

令和6年度は、博物館事業の基本となる埼玉の歴史と民俗に関する資料を適切に収集・保存・修復し、総合的に調査研究することにより、埼玉らしさを明らかにする。そしてその成果を展示公開するなど最大限に活用を図り、国内外への情報発信に努める。学習支援事業を推進し、学校や地域等との連携を深め、県民利用の一層の促進を図る。地域文化及び学術研究施設として、県内の博物館施設のセンター的役割を果たすべく努力する。

さらに、少子高齢化やグローバル化の進展など社会情勢の変化に対応し、県民を中心に世界中の人々が誰でも参加できる親しみやすい事業運営に努めるとともに、多様な「人財」の育成及び生涯にわたる学びを支援できるよう工夫する。また、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえながら、世代を超えて、すべての人をやさしく迎え、すべての人が楽しめる博物館を目指す。

【主な施策】

- (1) 調査研究に基づく、資料の収集・保管と展示の充実
- (2) 常設展及び特別展・企画展に関わる調査と資料収集、展示の充実
- (3) 県民の学習支援の推進と講座・講習会等の充実
- (4) 学習成果を生かす、体験学習・展示解説ボランティア活動の促進
- (5) 高度情報化に対応した広聴・広報活動の充実
- (6) 学校教育・社会教育・地域社会・民間団体等との連携

2 事業運営の重点的な取組

- (1) 総合的有害生物管理と資料総点検作業の計画的な実施
- (2) 埼玉の潜在的な文化遺産を活用するための組織的、継続的な調査研究の実施

【中期重点目標と取組（1）】

- (3) 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な企画展の開催

【中期重点目標と取組（1）】

- (4) 「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた学校教育との連携の強化

【中期重点目標と取組（3）】

- (5) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会等関係機関とのネットワーク機能の充実
- (6) 博物館ホームページの充実やSNSの活用、関係機関等との連携による戦略的広報の推進

【中期重点目標と取組（2）】

- (7) 安心・安全で快適な空間を提供する改修工事を始めとする施設の充実

【中期重点目標と取組（4）】

◆主要事業計画

1 中期重点目標と取組

- (1) 研究テーマに基づく調査研究と展示公開の取組（令和5年度～9年度）
 - ① 研究テーマと展示公開までを含めた年次計画の策定、実施に向けたチームの編成と実施
 - ② 中期的な調査研究テーマ（新規）についての検討
- (2) ホームページやSNSを駆使した効果的な情報発信の取組（令和5年度～7年度）
 - ① ホームページ「スタッフブログ」の充実
 - ② 館有資料に関するデジタルコンテンツの制作と公開
 - ③ 情報発信に係る委員会等による効果的で効率的な情報発信の検討
- (3) GIGAスクール構想に対応し、ICTを効果的に活用した学校連携の強化（令和5年度～7年度）
 - ① 第4学年社会科に対応したオンライン授業の実施
 - ② タブレット持参の社会科見学に対応した2次元バーコード読み取りによる展示解説の設置
- (4) 誰もが利用しやすく理解しやすい館内・展示環境実現の取組（令和5年度～7年度）
 - ① デジタルを活用した展示手法の実施

2 調査研究事業

- (1) 「埼玉の地方文化とその特性ー地域文化圏に関する調査研究ー」を館職員の調査研究共通テーマとし、その成果を『紀要』に掲載
- (2) 『紀要』第19号の編集、刊行
- (3) 文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査研究事業 「巡り・廻りの民俗行事」（第Ⅱ期）の実施
- (4) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (5) 県立博物館8館合同ミュージアムフォーラム学芸員合同研究発表会への参加

3 資料調査事業

- (1) 資料の収集
埼玉県歴史・文化・伝統を象徴するコレクションの形成・充実に重点を置いた購入・受贈を図り、さらに無形民俗文化財の映像等による記録保存にも努める。
- (2) 資料の整理・保存・管理
収集した資料を整理し、保存管理に万全を期するため、毎月資料総点検を実施するほか、劣化の進んだ資料については修理を実施する。
さらに総合的有害生物管理（Integrated Pest Management 略してIPM）を実施して、虫菌害予防のための資料保存・管理及び対策を図る。
池玉瀾筆「紙本墨画 菊蝶図」、立原杏所筆「絹本淡彩 花鳥図」、「刀 銘（葵紋）康継於越前作之」、「脇指 銘（葵紋）康継於越前作之」の修理を行う。
- (3) 館施設の防虫消毒
第1期 6月3日（月）～6月10日（月） 休館期間 左の期間と同様
第2期 9月9日（月）～9月10日（火） 休館期間 左の期間と同様
- (4) 減圧滅菌装置による初発燻蒸
新規受入資料及び外部借用資料等の減圧滅菌装置による燻蒸殺虫を適宜行い、有害虫及び有害菌の防除に万全を期する。

(5) 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等にある当館所蔵の民俗資料を適切に管理する。

4 常設展示事業

メインテーマ：「埼玉における人々の暮らしと文化」

(1) 展示替え

① 美術展示（第4室）

「麗しき祈り」	3月19日(火)～	5月12日(日)
「見立てて楽しむ源氏絵」	5月14日(火)～	6月 2日(日)
「わざのカタチ」	6月11日(火)～	9月29日(日)
「歌仙のおでまし」	10月 1日(火)～	12月15日(日)
「山水に遊ぶ」	12月17日(火)～	令和7年 3月 9日(日)
「ほとけを飾る」	令和7年 3月11日(火)～	5月11日(日)

② 歴史特集展示

第9室「埼玉遊覧」	3月19日(火)～	6月 2日(日)
第9室「すごいぞ！渋沢栄一」	6月11日(火)～	8月25日(日)
第9室「東京オリンピック1964」	8月27日(火)～	11月24日(日)
第7室「江戸時代の狩り」	10月 1日(火)～	12月22日(日)
第9室「館蔵引札コレクション」	11月26日(火)～	令和7年 3月 9日(日)
第3室「国宝太刀・短刀の公開」	令和7年 1月28日(火)～	3月 2日(日)
第9室「埼玉の自然と人々の営み」	令和7年 3月11日(火)～	6月 1日(日)

③ 民俗コラム展示（第10室）

「お茶づくり」	3月19日(火)～	6月 2日(日)
「水引細工」	6月11日(火)～	8月25日(日)
「花火づくり」	8月27日(火)～	12月15日(日)
「ちっちゃな縁起物」	12月17日(火)～	令和7年 3月16日(日)
「印半纏」	令和7年 3月18日(火)～	6月 1日(日)

④ 季節展示（季節展示室）

特別展・企画展の関連展示や時宜に合ったテーマの小展示などを実施する。

季節展「桐箱・桐箆笥」 9月11日(水)～ 9月29日(日)

⑤ 定例展示替え

毎月第3月曜日を目安に展示替えを実施。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝 法華経一品経(ときがわ町・慈光寺)	3月19日(火)～	5月12日(日)	第4展示室
	令和7年 3月11日(火)～	5月11日(日)	第4展示室
国宝 太刀	令和7年 1月28日(火)～	3月 2日(日)	第3展示室
国宝 短刀	令和7年 1月28日(火)～	3月 2日(日)	第3展示室
重文 大般若経(日高市・高麗神社)	3月 5日(火)～	5月12日(日)	第3展示室
重文 銅造阿弥陀如来立像(神川町・光明寺)	3月19日(火)～	5月12日(日)	第4展示室
重文 絹本着色高野明神像・丹生明神像(越生町法恩寺)	3月19日(火)～	4月14日(日)	第4展示室

- 重文 絹本著色釈迦三尊及阿難迦葉像（越生町・法恩寺）
3月19日(火)～ 4月14日(日)第4展示室
- 重文 雲版（飯能市・長光寺）
6月11日(火)～ 9月29日(日)第3展示室
- 重文 三十六歌仙額（川越市・仙波東照宮）
10月1日(火)～ 12月15日(日)第4展示室
- 重文 宋版一切経（川越市・喜多院）
10月22日(火)～ 12月15日(日)第7展示室
- 重文 紙本著色伝貞巖和尚像（久喜市・甘棠院）
10月22日(火)～ 11月17日(日)第5展示室
- 重文 阿弥陀聖衆来迎図（熊谷市・常光院）
令和7年 3月11日(火)～ 4月13日(日)第4展示室
- 重文 熊野神社境内古墳出土品（桶川市・熊野神社）
4月2日(火)～6月2日(日)第2展示室
- (3) 重要有形民俗文化財の展示
- 重民 北武蔵の農具
4月2日(火)～令和7年3月30日(日)第10展示室

5 特別展・企画展等

(1) 特別展

名称・開催期間	展示内容
特別展 「鉢形城主 北条氏邦」 令和6年3月16日(土) ～5月6日(月・振休)	<p>寄居町に所在する国指定史跡・鉢形城跡は、戦国時代に小田原北条氏が北武蔵支配の重要拠点とした名城である。現在の寄居町、秩父市、小鹿野町などの周辺地域には、鉢形城主北条氏邦やその家臣団ゆかりの文化財が多く残されている。本展では、氏邦と家臣団が奉納したものとしてよく知られる法養寺薬師堂（小鹿野町両神薄）の木造十二神将立像などを一堂に展示するとともに、近年における調査研究等の新たな成果を踏まえつつ、鉢形城主北条氏邦をめぐる歴史像を描き出す。</p> <p>開催日数：47日 展示資料：147点</p> <p>[関連事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会 4月14日(日) ・展示解説 3月20日(水・祝)、4月6日(土)、4月21日(日)、5月5日(日・祝) ・歴史民俗講座 4月27日(土) ・体験講座 3月23日(土)、3月27日(水)

名称・開催期間	展 示 内 容
<p>特別展</p> <p>「鷹のおでましー鷹狩の美術ー」</p> <p>令和6年10月12日（土） ～11月24日（日）</p>	<p>鷹は古来、権威の象徴とされてきた。鷹狩とは、猛禽類を野に放って獲物を捕らえる狩猟法で、天皇や貴族、武家が好んで行った。有力者の支配が土地や共同体にいきわたっていることを示す行為でもあり、江戸時代には現在の埼玉県にも将軍や大名が鷹狩を行う鷹場が設けられた。本展は、日本における鷹や鷹狩を主題とする美術作品を中心として、鷹のイメージや文化、鷹狩を視覚的に紹介するものである。</p> <p>開催日数：40日 展示資料：約70点</p> <p>[関連事業]（日程未定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念講演会 ・ 展示解説 ・ 歴史民俗講座 ・ 実演
<p>特別展</p> <p>「はたらく装いのフォークロア」</p> <p>令和7年3月15日（土） ～5月6日（火・振休）</p>	<p>田畑の野良着や潜り漁の磯着など、仕事の内容により様々な仕事着がある。衣服やはきもの、かぶりものにはそれぞれの仕事の特徴が表れ、各地の生業の在り方や文化を知ることができる。本展では、重要有形民俗文化財をはじめとする様々な民俗文化財をとおして、仕事着から仕事の実態に迫る。</p> <p>開催日数：47日 展示資料：約200点</p> <p>[関連事業]（日程未定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念講演会 ・ 展示解説 ・ 歴史民俗講座 ・ 民俗工芸実演

(2) 企画展等

名称・開催期間	展 示 内 容
<p>企画展</p> <p>「お金を出して！ —お金のふしぎ探検隊—」</p> <p>7月13日（土） ～9月1日（日）</p>	<p>令和6年、紙幣が刷新され埼玉三偉人の一人、渋沢栄一が新一万円札の顔になる。埼玉県に縁の深い新紙幣誕生を記念して、お金の歴史と現在、そして面白さや不思議さを子どもたちに向けてわかりやすく紐解き、楽しみながら紙幣や硬貨について考える展示とする。</p> <p>開催日数：47日 展示資料：約400点</p> <p>[関連事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子向けイベント 8月24日（土） ・子供向けイベント 8月25日（日） ・「お金づくり」体験イベント 8月4日（日） ・展示解説 7月27日（土）、8月10日（土）、8月17日（土）
<p>「新収集品展 2022・2023」</p> <p>12月24日（火） ～令和7年2月24日（月・振休）</p>	<p>当館では、新たに収集した歴史・民俗及び美術資料について、2年に一度、紹介展示を実施している。今回は令和4年度～令和5年度に収集した資料を紹介する。</p> <p>開催日数：53日 展示資料：約60点</p>

(3) 令和7年度開催予定特別展・企画展の準備

令和7年度に開催する予定の展覧会の準備を進める。

6 生涯学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座（5回）

期日：4月27日（土）、7月20日（土）、10月19日（土）、12月14日（土）、2月15日（土） 各日とも14：00～15：30

対象：一般

定員：各150名

② 民俗芸能講習会「江戸里神楽」（全4回）

期日：6月16日（日）、6月23日（日）、6月30日（日）、7月7日（日）

対象：一般

定員：30名

③ 民俗工芸実演

・水引細工

期日：8月 3日（土）

対象：一般

・春日部桐箆筒

期日：9月21日（土）

対象：一般

(2) 実習・研修等の受入れ

① 博物館学芸員実習

期間：6月13日(木)、14日(金)、18日(火)～21日(金)、及び7月から12月までの間に当館が指定する1日の全7日間

定員：45名以内

② 博物館見学実習

期間：通年(随時受入れ)

③ 中学生職場体験

期間：4～3月(随時受入れ)

④ 高校生インターンシップ

期間：4～3月 2～3日間

⑤ 教員研修等の受入れ

期間：4～3月(随時受入れ)

(3) 学校団体の受入れ

① 学校連携(来館対応)

期間：4月～3月(随時受入れ)

対象：小・中・高等学校、特別支援学校等

② 学校連携(出前授業)

期間：通年(随時受入れ)

対象：小・中・高等学校、特別支援学校等

③ ICTを効果的に活用した学校連携(オンライン授業)

期間：通年(随時受入れ)

対象：小・中学校、特別支援学校等

(4) デリバリー事業等の実施

① 県政出前講座

② 講座・講演講師派遣

(5) ボランティアの受入れ

① 体験学習ボランティアの育成と運営

② 展示解説ボランティアの育成と運営

ボランティアによる常設展の展示解説を、開館期間中、原則毎日行う。

7 ゆめ・体験ひろば事業

(1) 「ものづくり工房」通常体験メニュー

期日：4月2日(火)～3月30日(日)

対象：児童・生徒・一般(未就学児は保護者同伴)

定員：メニューにより定員あり(事前予約「可」のメニュー有)

① 藍染めハンカチ

事前予約「可」

② 江戸組紐ストラップ・ブレスレット

事前予約「可」

③ 絵馬

④ 歴史ぬりえ

⑤ ミニ絵巻物

⑥ まが玉

事前予約「可」

⑦ 浮世絵スリスリマシン

⑧ 季節のミニアート

⑨ コバトンベーゴマ

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

① 藍の絞り染めエプロン作り

期日：5月23日(木)

- 対象：大人
定員：8名
- ② 藍の型染めミニトートバッグ作り
期日：6月27日（木）、28日（金）
対象：大人
定員：10名
- ③ 木版浮世絵を摺る
期日：7月4日（木）、12月19日（木）
対象：大人
定員：各日6名（各日2回実施・定員各回3名）
- ④ 夏休み子ども組紐教室
期日：7月25日（木）、26日（金）
対象：小学3年～中学生
定員：各日16名（各日2回実施・定員各回8名）
- ⑤ ピカピカ！キラキラ！“お金”をつくってみよう
期日：8月4日（日）
対象：小学生以上
定員：20組（2回実施・定員各回10組 1組2名まで）
- ⑥ 16玉石踏組のブレスレットとネックレス作り
期日：10月18日（金）
対象：大人
定員：20名
- ⑦ ミニ銅鏡作り
期日：1月26日（日）
対象：小学生以上
定員：20名（2回実施・定員各回10名）
- ⑧ 16玉御岳組の帯締め作り
期日：2月21日（金）、28日（金）（2回連続）
対象：大人
定員：20名
- ⑨ 型付け藍染め体験
期日：2月22日（土）
対象：大人
定員：12名
- (3) 「昭和の原っぱ」イベント
- ① 博物館子どもまつり
射的遊び
期日：5月5日（日・祝）
対象：児童・生徒・一般
- ② ベーゴマ教室
期日：10月19日（土）
対象：小学生以上
定員：30名
- ③ 博物館春まつり
ポン菓子づくりの実演
期日：3月22日（土）
対象：児童・生徒・一般
- (4) その他特別体験事業
- ① 十二単・小桂と男子装束の着装体験
期日：4月27日（土）、7月27日（土）、12月7日（土）

- 対象：小学生以上、男子装束は高校生以上
定員：各日6名
- ② 十二単・小袿と男子装束の着装体験（ペア申込）
期日：6月15日（土）、10月12日（土）、3月1日（土）
対象：小学生以上、男子装束は高校生以上
定員：各日3組6名
- ③ お囃子体験教室「さんてこ囃子」
期日：6月22日（土）、10月26日（土）
対象：小学生以上
定員：20名
- ④ 火おこし体験教室
期日：10月5日（土）、②11月9日（土）、③12月14日（土）
対象：小学生以上
定員：各日24名（1日2回実施・定員各回4組・1組3名）
- ⑤ 甲冑の着装体験
期日：11月30日（土）、2月15日（土）
対象：小学生以上
定員：各日12名
- (5) 博物館クルーの育成・活用
「ゆめ・体験ひろば」等の体験メニューや博物館の事業の運営に協力するための高度な技術を持つ人々を育成し、活用する。
- (6) キッズクルーの募集
将来の埼玉文化の継承者や良き博物館利用者の育成及びゆめ・体験ひろば等における子供対象事業への参加促進を図るため、「キッズクルー」の募集を行う。
対象：県内在住の小学生中心

8 その他の主催事業

- (1) 県民の日イベント
唐破風 お囃子LIVE!!2024
期日 11月14日（木・県民の日）
対象 一般
- (2) 正月臨時開館関連事業
- ① 「博物館でお正月」福笑い・かるた遊び
期日 1月2日（木）
- ② 「博物館でお正月」投扇興・かるた遊び
期日 1月3日（金）
- ③ 「博物館でお正月」羽根つき、絵馬パズル、独楽回し、すごろく
期日 1月2日（木）～3日（金）
- (4) 博物館裏方探検隊
普段見ることのできない博物館のバックヤードを学芸員が案内する。
原則毎週土曜日の午後実施 対象：一般 定員：なし

9 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会の運営等（会長・事務局）
- ① 総会・役員会・研究会・見学会等の開催
- ② ホームページの管理・運営
- (2) 関東地区博物館協会の運営（埼玉県代表幹事館）
- (3) 全国歴史民俗系博物館協議会の運営（関東ブロック幹事館）

- (4) 日本博物館協会の活動（参与）
- (5) 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会との連携・交流
- (6) 県政出前講座の受け入れ、講座・講演講師派遣
- (7) 埼玉県文化財保護協会等の県内文化財関係団体との共催による講習会・研修会の開催
- (8) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会の運営（会長・事務局）
- (9) 首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2024」への参加
- (10) 埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加
- (11) その他関係団体・民間企業との連携

10 広聴広報

- (1) 広聴
講座・講演会・特別展等アンケートの実施
- (2) 広報
 - ① イベントガイド・博物館だより・ポスターほか
 - ② 彩の国だより・県教委だよりほか
 - ③ 新聞・雑誌・テレビ・ラジオほか
 - ④ インターネット・SNSによる情報発信
 - ⑤ 当館ホームページの管理・運営
 - ⑥ イベントブース出展、自治会回覧等による地域広報
- (3) レファレンスサービス

11 各種印刷物の刊行

- (1) 『紀要』第19号
- (2) 展示図録等
- (3) その他
 - ① 令和7年度イベントガイド
 - ② 令和6年度要覧
 - ③ 博物館だより web 版
 - ④ 学校と博物館の連携利用案内（令和6年度版）
 - ⑤ 無形民俗文化財調査事業 巡り・廻りの民俗行事（第Ⅱ期）調査概報Ⅶ

12 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期する。

令和5年度 事業報告

1 調査研究事業

分野ごとの基礎的・分類的・形態学的調査研究、展示・教育・運営等博物館活動の諸分野に関する研究、資料の収集・保存に関する技術的研究など、博物館活動の基礎となる調査研究のほか、次の事業を行った。

- (1) 常設展示資料に関する調査研究
- (2) 『紀要』第18号の編集、刊行(400部)
- (3) 文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査研究事業「巡り・廻りの民俗行事」(第Ⅱ期)「玉敷神社のお獅子さま」の調査の実施、映像記録「玉敷神社のお獅子さま」の制作
- (4) 次年度開催特別展に関する調査研究
- (5) 県立博物館8館合同ミュージアムフォーラム学芸員合同研究発表会への参加

2 資料の収集・保存・管理事業

常設展示や特別展示等の充実及び人文系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集基準及び資料評価会議の指導に基づき資料を収集した。

また、資料の虫菌害対策や、保存環境の整備のため、定期清掃等の総合的有害生物管理(IPM)を実施した。

(1) 資料の収集

新規受入れ資料として26件89点を収集した。

① 購入(21件64点)

- | | |
|-------------------|-----|
| ・戸田忠昌書状 | 1点 |
| ・阿部重次書状 | 1点 |
| ・埼玉県戦時関係資料 | 30点 |
| ・横浜絵 魯西亜婦人港崎遊行 | 1点 |
| ・横浜絵 清国南京人 | 1点 |
| ・横浜絵 仏郎西人 | 1点 |
| ・都風俗化粧伝(上・中・下巻) | 3点 |
| ・軍人援護会埼玉県支部 慰問絵葉書 | 4点 |
| ・御成婚記念埼玉会館 絵葉書 | 3点 |
| ・埼玉県商品陳列所 絵葉書 | 2点 |
| ・埼玉県行幸記念 絵葉書 | 4点 |
| ・大風上げ 絵葉書 | 4点 |
| ・黒漆塗二枚桶側胴(五七の桐) | 1点 |
| ・黒漆塗背割胴(日の丸) | 1点 |
| ・黒漆塗堅矧前懸胴(鉄砲隊用) | 1点 |
| ・伝単 | 1点 |
| ・オリンピック東京大会記念風呂敷 | 1点 |
| ・見立三十六歌撰之内 源公忠朝臣 | 1点 |
| ・観古東錦 将軍家船遊之図 | 1点 |
| ・太平記英雄伝 建中官兵衛重治 | 1点 |
| ・ポスター(防空警報) | 1点 |

② 受贈(5件25点)

- | | |
|---------------------|----|
| ・鍋(ホットパン)、干支置物、鋳物置物 | 5点 |
| ・秩父銘仙ポスター | 2点 |
| ・絹本着色 蓬萊山図 | 1点 |

- ・五月節句飾、御座敷幟、鴻巣人形（神武天皇、鐘馗）、破魔弓 5点
- ・割物模型等 12点

③ 保管転換（なし）

(2) 資料の整理・保存・管理

① 資料管理

- ・ I P M推進委員会の開催 4月19日（水）、2月9日（金）
- ・ 収蔵庫定期清掃 月2回（原則第2・4木曜日）
- ・ 有害生物生息状況調査（館内、嵐山史跡の博物館、文化財収蔵施設）
月1回（原則月末火曜日）
- ・ 収蔵庫ほか忌避剤散布 9月16日（土）～18日（月）
- ・ 搬入展示資料等の燻蒸 8月9日（水）～11日（金）
8月9日（水）～24日（木）
12月11日（月）～12日（火）
1月16日（火）～17日（水）
1月23日（火）～24日（水）
1月28日（日）～29日（月）

- ・ 外部燻蒸 2月19日（月）～24日（土）

② 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等に所在する当館所蔵の民俗資料の管理

- ・ 収蔵庫定期清掃 工事休館からの再開館後に3回
- ・ 有害生物生息状況調査 月1回（原則月末水曜日）

③ 資料の修理

- ・ 春木南湖筆「紙本山水図」 1幅
- ・ 春木南湖筆「絹本山水図」 1幅

(3) 資料の貸出、特別利用（フィルム等の貸出、資料の熟覧等）

- ① 貸出 あべのハルカス美術館、府中市美術館ほか 7件（37点）
- ② 特別利用 NHKエンタープライズ、山川出版社ほか 96件（382点）

3 常設展示事業

「埼玉における人々の暮らしと文化」をメインテーマに、総合的な視野で時代の推移が理解できる展示に努めた。また、調査や研究に基づく展示替えや特別公開などにより、展示内容の充実を図った。

(1) 展示替え

① 美術展示（第4室）

- 「異国への憧れ」 10月14日（土）～12月17日（日）
- 「諸井家の美術」 12月19日（火）～令和6年3月17日（日）
- 「麗しき祈り」 3月19日（火）～5月12日（日）

② 歴史特集展示

- 第7室「家康と北武蔵」 10月14日（土）～12月17日（日）
- 第9室「銀座復興絵巻」 10月14日（土）～12月17日（日）
- 第9室「渋沢栄一ゆかりの人物 諸井恒平」 12月19日（火）～令和6年3月17日（日）
- 第9室「埼玉遊覧」 令和6年3月19日（火）～6月2日（月）
- 第3室「国宝太刀・短刀の公開」 令和6年1月30日（火）～3月3日（日）

③ 民俗コラム展示（第10室）

- 「炭をつかう」 10月14日（土）～12月17日（日）
- 「子どもの祝い」 12月19日（火）～令和6年3月17日（日）
- 「お茶づくり」 令和6年3月19日（火）～6月2日（日）

④ 季節展示（季節展示室）

特別展・企画展の関連展示や時宜に合ったテーマの小展示などを実施した。

パネル展示「休館中の博物館」 10月14日（土）～ 11月 5日（日）

特別展「縄文コードをひもとく」 11月14日（火）～令和6年1月14日（日）

文化遺産調査活用事業報告展示「巡り・廻りの民俗行事」
令和6年1月30日（火）～3月3日（日）

特別展「鉢形城主 北条氏邦」 令和6年3月16日（土）～5月6日（月・振休）

⑤ 定例展示替え

毎月最終月曜日を目安に展示替えを実施した。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝 法華経一品経（ときがわ町・慈光寺）

令和6年3月19日（火）～5月12日（日） 第4展示室

国宝 太刀 令和6年1月30日（火）～3月 3日（日） 第3展示室

国宝 短刀 令和6年1月30日（火）～3月 3日（日） 第3展示室

「刀剣乱舞—ONLINE—」コラボレーション企画

コラボ期間 令和6年1月30日（火）～3月 3日（日）

「刀剣男子『謙信景光』等身大パネルおよび描き下ろしイラストの展示」

「入場者特典（オリジナルカード）の配布」

「刀剣乱舞万屋本舗ミニ出張所の展開」

重文 熊野神社境内古墳出土品（桶川市・熊野神社）

10月14日（土）～ 通年 第2展示室

重文 大般若経（日高市・高麗神社）

令和6年 3月5日（火）～ 5月12日（日） 第3展示室

重文 絹本着色釈迦三尊及阿難迦葉像（越生町・法恩寺）

令和6年 3月19日（火）～ 4月14日（日） 第4展示室

重文 宋版一切経（川越市・喜多院） 10月14日（土）～12月17日（日） 第7展示室

重文 銅造阿弥陀如来立像（神川町・光明寺）

令和6年 3月19日（火）～ 5月12日（日） 第4展示室

重文 絹本着色高野明神像・丹生明神像（越生町・法恩寺）

令和6年 3月19日（火）～ 4月14日（日） 第4展示室

(3) 重要有形民俗文化財の展示

北武蔵の農具

10月14日（土）～ 通年 第10展示室

4 特別展・企画展等

当館の主催又は関係団体との共催により、特定のテーマに基づいて資料を収集・構成し、特色ある特別展・出張展示を開催した。

(1) 出張展示「書画から見よう 栄一と惇忠」

期 日 4月26日（水）～6月25日（日）

趣 旨 当館の渋沢栄一に関連する資料や、渋沢栄一記念館所蔵の尾高家旧蔵絵画資料をあわせて公開し、深谷市ゆかりの渋沢栄一と尾高惇忠について、その人となりや交流関係を紹介した。

共催・会場 深谷市渋沢栄一記念館

展示資料総数 25点

開館日数 59日

会期中観覧者 14,956名（展示室以外の渋沢記念館利用者も含む）

[関連事業]

- ・講演会 「栄一と悼忠をめぐる美術」

期 日 5月21日（日）

講 師 井上 海（当館学芸員）

参加者 30名

- ・展示解説

期日・参加者 5月13日（土） 参加者 13名

6月10日（土） 参加者 30名

- ・出張販売

期 日 5月13日（土）、5月21日（日）、6月10日（土）

(2) 特別展「縄文コードをひもとくー埼玉の縄文土器とその世界ー」

期 日 11月14日（火）～令和6年1月14日（日）

趣 旨 埼玉県には多くの縄文時代の遺跡があり、発掘調査で膨大な数の縄文土器が見つっている。埼玉県を代表する縄文遺跡や最新の調査で出土した縄文土器を一堂に展示し形や文様、意匠に注目して縄文土器にこめられた縄文人の思想〔縄文コード〕に迫った。

展示資料総数 232点

開館日数 52日

会期中観覧者 7,956名

[関連事業]

- ・記念講演会 「縄文土器から読む縄文人の心とコミュニケーション」

期 日 12月10日（日）

講 師 谷口 康浩 氏（國學院大學文学部教授）

参加者 123名

- ・歴史民俗講座「埼玉の縄文土器の魅力」

期 日 11月26日（土）

講 師 片山 健太郎（当館学芸員）

参加者 106名

- ・展示解説

期日・参加者 11月23日（木・祝） 参加者 41名

12月3日（日） 参加者 28名

令和6年1月2日（火） 参加者 32名

1月6日（土） 参加者 42名

1月14日（日） 参加者 79名

[共催事業]

- ・埼玉縄文カード配布事業「埼玉縄文カードを集めよう！！」

概 要 特別展に関連し、県内出土の縄文土器に親しんでもらうための縄文カード14種類を作成し、当館および県内8市町の展示施設等で来館者に配布した。3施設以上をめぐりカードを集めた来館者には、特典カードをプレゼントした。

期 間 11月14日（火）～令和6年1月14日（日）※当館のカード配布期間。

- ・埼玉考古学会研究会「埼玉の縄文時代後晩期研究の現状」

期 日 12月2日（土）

参加者 142名

(3) 文化遺産調査活用事業報告展示「巡り・廻りの民俗行事」（季節展示室）

期 日 令和6年1月30日（火）～3月3日（日）

趣 旨 平成28年度から継続して実施している文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査事業「巡り・廻りの民俗行事」（I期）の成果として「廻り地蔵」「大般若経の巡行行事」「玉敷神社のお獅子さま」等の行事を、また現在取り組んでいる第II期調査について紹介した。

展示資料総数 20点

開館日数 31日

会期中観覧者（常設展入場者） 5,032名

[関連事業]

- ・歴史民俗講座「巡り・廻りの民俗行事」

期 日 2月23日（金・祝）

講 師 戸邊 優美（当館学芸員）

参加者 61名

- ・展示解説

期日・参加者 2月10日（土） 参加者 12名

(3) 特別展「鉢形城主 北条氏邦」

期 日 令和6年3月16日（土）～5月6日（月・振休）

趣 旨 寄居町に所在する国指定史跡・鉢形城跡は、戦国時代に小田原北条氏が北武蔵支配の重要拠点とした名城である。現在の寄居町、秩父市、小鹿野町などの周辺地域には、鉢形城主北条氏邦やその家臣団ゆかりの文化財が多く残されている。本展では、氏邦と家臣団が奉納したのものとしてよく知られる法養寺薬師堂（小鹿野町両神薄）の木造十二神将立像などを一堂に展示するとともに、近年における調査研究等の新たな成果を踏まえつつ、鉢形城主北条氏邦をめぐる歴史像を紹介した。

展示資料総数 147点

開館日数 47日（令和5年度 15日）

会期中観覧者 7,842名（令和5年度 1,732名）

[関連事業]

- ・記念講演会 「北条氏邦研究の最前線」

期 日 4月14日（日）

講 師 浅倉 直美 氏（駒澤大学文学部歴史学科准教授）

参加者 139名

- ・歴史民俗講座「北条氏邦の魅力に迫る－展覧会をもっと楽しむために－」

期 日 4月27日（土）

講 師 黒田 千尋（当館学芸員）

参加者 123名

- ・展示解説

期日・参加者 3月20日（水・祝） 参加者 44名

4月 6日（土） 参加者 61名

4月21日（日） 参加者 72名

5月 5日（日・祝） 参加者 123名

- ・鱗柄の組紐ストラップづくり

期 日 ①3月23日（土） ②3月27日（水）

講 師 当館職員および体験学習ボランティア

参加者 ①午前：8名 午後：8名 ②午前：8名 午後：8名

[共催事業]

- ・特別展イベント「探訪！国史跡鉢形城跡」

概 要 特別展で紹介する北条氏邦の居城鉢形城跡を訪ねる現地見学会。遺構や最新の発掘調査について解説し、関東屈指の名城の面影に触れる。

共 催 寄居町教育委員会

会 場 鉢形城歴史館（集合場所）
講 師 鉢形城歴史館 主事 石塚 三夫 氏
期 日 3月10日（日）
参加者 34名

5 生涯学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

①歴史民俗講座

- ・「埼玉の縄文土器の魅力」
期 日 11月26日（日）
講 師 片山 健太郎（当館学芸員）
参加者 106名
- ・「巡り・廻りの民俗行事」
期 日 2月23日（金・祝）
講 師 戸邊 優美（当館学芸員）
参加者 61名

② 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」

期 日 令和6年2月17日（土）、24日（土）、3月2日（土）、9日（土） 全4回
受講者 32名（延べ121名）

③ 民俗工芸実演

- ・花火作り
期 日 11月5日（日）
講 師 根岸和弘氏、根岸大夢氏（根岸火工有限会社）
参加者 35名

④ 第13回学芸員合同研究発表会ミュージアムフォーラム

期 日 12月17日（日）
講 師 井上 海（当館学芸員）「諸井家旧蔵絵画類について—江戸後期の文人画を中心に—」
参加者 49名
会 場 埼玉県立近代美術館

⑤ 出張講座 あなたの街にも「れきみん埼玉」（講師は全て当館職員）

- ・第1回 期日 5月27日（土） 会場 久喜図書館
午前の部「描かれた平家物語—義経、直実、敦盛—」（学芸主幹 池田 伸子）
「博物館資料の保存と修復」（学芸員 濱田 翠） 参加者26名
午後の部「埼玉の隠れた偉人 清水卯三郎」（学芸員 木村 遼之）
「古文書から見る埼玉のお寺」（学芸員 黒田 千尋） 参加者29名
- ・第2回 期日 6月18日（日） 会場 熊谷図書館
午後の部「モノの分布から見る埼玉の古墳時代」（館長 末木 啓介）
「古代埼玉の渡来系氏族」（主席学芸主幹 加藤 かな子）
「小鹿野町法養寺薬師堂の「落書き」」（主任学芸員 根ヶ山 泰史）
参加者42名
- ・第3回 期日 7月26日（水） 会場 ウェスタ川越
午前の部「お茶づくりの多様化に見る生産者の戦略—狭山茶生産を事例として—」（学芸員 町田 歩未）
「ごはんVSうどん—埼玉の郷土食を調査してみた—」（学芸員 戸邊 優美）
参加者32名
午後の部「博物館所蔵資料の紹介—考古学者 柴田常恵のコレクション—」（学芸員 別所 鮎実）

「埼玉の近世窯」(学芸員 中島 萌)
「文化財と X 線と一稲荷山古墳鉄剣銘文発見あれこれ」(主席学芸主幹 野中 仁)

参加者 45名

- ・第4回 期日 8月1日(火) 会場 久喜図書館
 - 午前の部「おぼけ図鑑 Part 2」(学芸員 井上 海) 参加者 32名
 - 「おぼけちょうちんをつくろう」(学芸員 原 綾音)
 - 午後の部「ハニワってな～に？」(副館長 岡本 健一) 参加者 23名
 - 「ミニはにわをつくろう」(学芸員 篠崎 彩乃)
- ・第5回 期日 8月25日(金) 会場 ウェスタ川越
 - 午前の部「埼玉と鉄道ー川越に鉄道が通った日ー」(学芸員 鈴木 一史) 参加者 43名
 - 「江戸と水車ー江戸と周辺農村との関係性ー」(学芸員 小松 和史)
 - 午後の部「ふつうの家からわかること」(学芸員 田口 志織) 参加者 32名
 - 「埼玉県の文化財建造物」(主任学芸員 大橋 毅頭)

(2) 実習・研修等の受入れ

- ① 博物館見学実習
日本大学など6大学 130名
- ② 中学生職場体験
さいたま市立第二東中学校など2校10名 延べ6日間
- ③ 高校生インターンシップ
受入れなし
- ④ 大学生インターンシップ
受入れなし
- ⑤ 教員向け研修の受入れ(教育利用セミナー等)
 - ・高等学校初任者研修(教科別・地歴公民)※ 県立総合教育センターとの共催
10月25日(水) 55名
 - ・博物館教育利用セミナー
実施なし
- ⑥ その他研修の受入れ
なし

(3) 学校団体の受入れ

- ① 学校連携(来館対応)
小学校56校(特別支援学級3を含む)、中学校2校(特別支援学級2を含む)、
特別支援学校2校、保育園3園、その他学校関係5団体(教育相談室2 フリースクール3)
計68校
- ② 学校連携(出前授業)
鴻巣市立田間宮小学校など47件 参加3,000名(放課後子ども教室1、公民館2含む)
- ③ オンライン授業
幸手市立行幸小学校など3校 6件 参加者 180名
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」の博物館利用の検討

(4) デリバリー事業等

- ① 県政出前講座
公民館主催事業(熊谷市中央公民館)など 6件 参加者 116名
- ② 講座・講演講師派遣
秩父市歴史文化伝承館、加須市シニアいきいき大学など 5件 参加者 218名

(5) ボランティアの受入れ

- ① ボランティア活動、養成講座
ア ボランティア活動

- ・体験学習ボランティア 76名登録
まが玉づくり・藍染めハンカチ・組紐ストラップ・学校団体などの体験学習指導補助、スキルアップ研修等

延べ活動日数 153日 延べ活動人数 1,141名

- ・展示解説ボランティア 55名登録

常設展の展示解説を開館期間中実施した。

延べ活動日数 146日 延べ活動人数 560名

イ ボランティア研修

ボランティア養成のための専門的講座及び実践的な研修を実施した。

体験学習ボランティア 延べ開催日数 30日 延べ参加人数 306名

展示解説ボランティア 延べ開催日数 14日 延べ参加人数 223名

6 ゆめ・体験ひろばの運営

それぞれ特色のある機能と設備を持つ4つのエリアで、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを、子どもから高齢者、初心者からリピーターまでさまざまな参加者を対象に実施している。

新型コロナウイルス感染対策制限緩和に伴い、10月14日（土）の再開館後から、ものづくり工房の体験人数の上限緩和を行い、持ち帰り用として材料販売のみを行っていた通常体験メニュー（絵馬、歴史ぬりえ、季節のミニアート）を再開した。また、特別体験メニュー、特別体験事業は、感染対策を講じて実施した。

(1) 「ものづくり工房」通常体験メニュー

① 藍染めハンカチ	1,038名	
② 江戸組紐ストラップ等	309名	
③ 絵馬	47名	
④ 歴史ぬりえ	29名	
⑤ ミニ絵巻物	228名	
⑥ まが玉	2,161名	
⑦ 浮世絵スリスマシン	182名	
⑧ 季節のミニアート	341名	
⑨ コバトンベーゴマ	65名	※ 販売のみ
合計	4,400名	

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

① 木版浮世絵を摺る		
期 日	12月20日（水）	参加者 6名
期 日	1月31日（水）	参加者 6名
② 藍の型染めミニトートバッグ作り		
期 日	11月23日（木）、24日（金）	参加者 18名
③ ミニ銅鏡作り		
期 日	1月27日（土）	参加者 14名
④ 16玉丸源氏組のめがね紐とキーホルダー作り		
期 日	12月1日（金）	参加者 15名
⑤ 型付け藍染め体験		
期 日	2月24日（土）	参加者 10名
⑥ 16玉ゆるぎ組の帯締め作り		
期 日	2月9日（金）、16日（金）【要二日受講】	参加者 15名

(3) 「昭和の原っぱ」イベント等

① ベーゴマ教室		
期 日	10月28日（土）	参加者 27名

- ② 博物館春まつり
期 日 3月16日(土) 参加者 116名
- (4) その他の特別体験事業
- ① 十二単・小桂と男子装束の着装体験
期 日 11月18日(土) 参加者 6名
期 日 1月13日(土) 参加者 6名
期 日 3月9日(土) 参加者 6名
- ② チームでチャレンジ 火おこし体験教室
期 日 12月9日(土) 参加者 23名
期 日 2月10日(土) 参加者 19名
- ③ お囃子体験教室「さんてこ囃子」
期 日 2月3日(土) 参加者 15名
- (5) 出張ものづくり体験 あなたの街にもゆめ・体験ひろば
- ① まが玉づくり@さいたま市国際友好フェア
期 日 5月3日(水・祝) 4日(木) 参加者 288名
- ② 藍染めハンカチづくり@県立さきたま史跡の博物館
期 日 5月20日(土) 参加者 36名
- ③ まが玉づくり@県立自然の博物館
期 日 6月10日(土) 参加者 41名
- ④ まが玉づくり@県立近代美術館
期 日 7月23日(日) 参加者 29名
- ⑤ ミニ絵巻物づくり@県立嵐山史跡の博物館
期 日 8月8日(火) 参加者 65名
- ⑥ ミニ絵巻物づくり@県立文書館
期 日 8月18日(金) 参加者 21名

7 その他の主催事業

- (1) 県民の日イベント「唐破風お囃子 LIVE!!2023」
期 日 11月14日(火) 参加者 227名
- (2) 正月臨時開館関連事業「博物館でお正月」
- ① 「正月遊び」福笑い、かるた遊び
期 日 1月2日(火) 参加者 59名
- ② 「正月遊び」投扇興、かるた遊び
期 日 1月3日(水) 参加者 113名
- ③ 「正月遊び」羽根つき、絵馬パズル、独楽回し、すごろく
期 日 1月2日(火)～1月3日(水)
- ④ 県立大宮光陵高校書道科の生徒による揮毫の展示
期 日 1月2日(火)～1月8日(月・祝)
- ⑤ 「展示室で福探し」常設展示室内で縁起の良い画像データを配布
期 日 1月2日(火)～1月8日(月・祝)
- ⑥ 特別展「縄文コードをひもとく」展示解説
期 日 1月2日(火) 参加者 32名
- ⑦ 「博物館お宝探検隊」
期 日 1月3日(水) 参加者 59名
- (3) 出張パネル展示「れきみん埼玉を知っていますか」
期日・会場 3月15日(水)～
4月14日(金) 埼玉県庁舎3階渡り廊下
5月3日(水)～5月4日(木) 国際友好フェア

5月16日(火)～5月28日(日) 久喜図書館
5月27日(土)～7月30日(日) 熊谷図書館
7月19日(水)～8月1日(火) 久喜図書館
10月2日(月)～10月31日(火) 埼玉県庁舎3階渡り廊下

- (4) 博物館裏方探検隊
原則、毎週土曜日に博物館のバックヤードを紹介。 25回 参加者 308名
リニューアル記念イベントとして、スペシャル版で実施(10月14日(土)、15日(日))
各日2回 参加者 90名

8 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会(会長)・運営等(事務局)
- ① 総会・役員会・見学会・研究会等の開催
 - ② 「埼玉県博物館連絡協議会 加盟館園マップ」の作成(15,000部)
 - ③ ホームページの管理・運営
- (2) 関東地区博物館協会の運営等(埼玉県代表幹事館)
- ① 総会、理事会、研究会出席
 - ② 機関誌「関東の博物館」第48号の原稿執筆
 - ③ 埼玉県内加盟館との調整
- (3) 全国歴史民俗系博物館協議会の運営(関東ブロック幹事館)
総会への参加
- (4) 日本博物館協会(参与)
全国博物館大会等への参加
- (5) 「博物館友の会」との連携・共催事業の実施
- ① 講演会
 - ・「埴輪が語る古墳時代の埼玉」
期日 4月5日(水)
講師 岡本 健一(当館副館長)
参加者 99名
会場 さいたま市民会館おおみや
 - ② プレミアム講座
 - ・「埼玉の隠れた偉人 清水卯三郎」
期日 11月29日(水)
講師 木村 遼之(当館学芸員)
参加者 51名
 - ・「文化財とX線と」—稲荷山鉄剣銘文発見あれこれ—
期日 1月24日(水)
講師 野中 仁(当館主席学芸主幹)
参加者 62名
- (6) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会による連携事業の実施
平成23年度に近隣9施設で活動を開始した「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会は、令和5年度から大宮第二公園事務所が加入し、10施設となった。
連携事業として、下記の事業を実施した。
- ・第1回ウォーキングツアーの実施
期日 11月25日(土)
参加者 23名
 - ・スタンプラリーの実施
期日 9月30日(土)～1月31日(水)

- ・「第一回大宮公園防災車中泊&キャンプ Fes.」（次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）でのブース出展、チラシの配布等の PR 活動
期 日 9月30日（土）、10月1日（日）
 - ・「氷川の歴史とスサノオノミコト」（次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）での博物館クイズラリーの開催
期 日 11月3日（金・祝）
参加者 80名
 - ・「大宮公園ボート池復活祭 Re:Fes 大宮」（次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）でのブース出展、チラシの配布等の PR 活動
期 日 12月2日（土）
 - ・第2回ウォーキングツアーの実施
期 日 3月2日（土）
参加者 11名
 - ・「ミュージアムヴィレッジ大宮公園ガイドマップ」の作成
従来の公式ガイドブックをマップ型に作り直し、各施設に配付（10,000部）
- (7) ミュージアム・カレッジ2023埼玉の学びと読書 ※埼玉大学と共催
- ・第1回 「近世・近代の読書と学び ～埼玉の人は何を読んでいた？～」
期 日 11月17日（金）
講 師 木村 遼之（当館学芸員）
参加者 41名
 - ・第2回 「岩槻藩校「遷喬館」と児玉南柯」
期 日 11月24日（金）
講 師 井上 智勝（埼玉大学図書館長）
参加者 52名
 - ・第3回 「写真でたどる埼玉県立図書館100年のあゆみ」
期 日 12月8日（金）
講 師 小熊 ますみ（久喜図書館副館長）
参加者 40名
 - ・第4回 「埼玉の最高学府ー埼玉大学とその前身校ー」
期 日 12月22日（金）
講 師 井上 智勝（埼玉大学図書館長）
参加者 46名
- (8) 連携事業等
- ・埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加
 - ・首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2023」への参加
- (9) その他事業の共催
- ・文化財レスキュー・防災研修会
共催団体 埼玉県文化財保護協会、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会
期 日 3月1日（金）
参加者 37名

9 広聴広報

(1) 広聴

- ① 特別展・企画展等のアンケートの実施
- ② 博物館利用者アンケートの実施
利用者アンケートの結果をフィードバック

(2) 広報

- ① 当館刊行物、県刊行物による広報のほか、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等による広報を積極

的に行うとともに、インターネット・SNSによる情報発信を行った。

- ② 「第一回大宮公園防災車中泊&キャンプ Fes.」、「大宮区民ふれあいフェア」、「西区ふれあいまつり」、「大宮公園ボート池復活祭 Re:Fes 大宮」にブース出展し、パンフレットの配布などの広報活動を行った。

また、「氷川の歴史とスサノオノミコト」での博物館クイズラリーを開催した。

- ・「第一回大宮公園防災車中泊&キャンプ Fes.」（次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）
9月30日（土）、10月1日（日）
- ・大宮区民ふれあいフェア 10月28日（土）
- ・西区ふれあいまつり 11月11日（土）
- ・「氷川の歴史とスサノオノミコト」（次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）
11月3日（金・祝） 参加者 80名
- ・「大宮公園ボート池復活祭 Re:Fes 大宮」（次世代につなぐ大宮公園検討グループ主催）
12月2日（土）

- (3) レファレンスサービス（187件）

博物館の利用に関する相談、埼玉の歴史・考古・民俗・美術に関する学習相談、情報提供、特別展・企画展・常設展の内容等照会、体験学習の指導・助言等の実施。

10 令和5年度印刷刊行物等一覧

※ [] 内は販売価格。記載のないものは無料配布

- | | |
|----------------------------------|---------|
| (1) 紀要第18号 [1,000円] | 400部 |
| (2) 展示図録等 | |
| 特別展「縄文コードをひもとく」図録 [1,000円] | 1,600部 |
| 特別展「鉢形城主 北条氏邦」図録 [1,100円] | 1,600部 |
| 常設展示解説リーフレット（10種類） | 46,000部 |
| (3) 令和6年度イベントガイド | 25,000部 |
| (4) 見学のしおり | 20,000部 |
| (5) 令和5年度博物館要覧 | 95部 |
| (6) 博物館だより web版（第51・52合併号、第53号） | |
| (7) 授業に役立つ博物館活用ガイド（令和5年度版） | 7,000部 |
| (8) 巡り・廻りの民俗行事（第Ⅱ期）調査概報VI [800円] | 300部 |

11 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期した。

- (1) 防災訓練（消防、地震）
12月20日（水）
3月6日（水）
- (2) 自家用電気工作物電気保安検査 10月30日（月）
- (3) 大規模改修工事
老朽化した施設の大規模改修工事（第Ⅰ期）のため、令和4年12月5日（月）から令和5年10月13日（金）まで全面休館し、空調設備の更新、展示室の改修（特別展示室、季節展示室及び常設展示第3室）、展示ケース内等のLED照明への更新、管理棟の屋上防水の改修、防火設備の更新などを実施した。
- (4) 施設設備の保守業務委託、小破修繕の実施

令和5年度 利用者数

	開館 日数	利用者 合計 (A+B)	入館者数(A)						館外 活動 (B)
			合計 (C+D)	展示室観覧者(C)			入場者数 (D)		
				合計 (E+F)	有料(E)			無料(F)	
					小計	観覧料 円			
日	人	人	人	人	人	円	人	人	
4月	-	1,339	-	-	-	-	-	-	1,339
5月	-	8,301	-	-	-	-	-	-	8,301
6月	-	6,855	-	-	-	-	-	-	6,855
7月	-	497	-	-	-	-	-	-	497
8月	-	290	-	-	-	-	-	-	290
9月	-	416	-	-	-	-	-	-	416
10月	15	5,162	4,927	2,455	1,113	329,550	1,342	2,472	235
11月	27	10,103	9,686	4,820	2,376	929,600	2,444	4,866	417
12月	24	6,859	6,583	3,422	1,969	961,700	1,453	3,161	276
1月	27	8,414	8,194	4,391	2,443	1,072,000	1,948	3,803	220
2月	26	8,078	7,488	4,140	2,972	849,750	1,168	3,348	590
3月	28	8,893	8,093	3,144	2,460	1,022,450	684	4,949	800
年度計	147	65,207	44,971	22,372	13,333	5,165,050	9,039	22,599	20,236

(C)の参考		(D)の参考	
常設展 観覧者数	特別展 企画展 観覧者	講座等 参加者	ゆめ・体験ひろば 入場者
人	人	人	人
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-
2,455	-	711	2,020
2,383	2,437	700	3,244
382	3,040	511	1,807
1,912	2,479	524	2,362
4,140	-	268	2,220
1,412	1,732	338	2,162
12,684	9,688	3,052	13,815

※1 館外活動(B)の主な内訳…出前授業や県政出前講座
 ※2 入場者数(D)の主な内訳…無料スペースを訪れた人数、ゆめ体験参加者、講座等参加者
 ※3 令和5年4月1日(土)～令和5年10月13日(金) 工事休館

展示概要等

■屋外展示

館庭は縄文時代と弥生時代の遺跡で、一部が県指定史跡となっている。発掘調査の成果をもとに弥生時代の竪穴住居を復元しており、その背後にある方形周溝墓は弥生時代後期の有力者の墓である。

■常設展示—埼玉における人々のくらしと文化—

常設展示のメインテーマは「埼玉における人々のくらしと文化」である。歴史を常に庶民の立場から見ていくという思想で貫き、庶民の力強さをダイナミックに表現することを基本姿勢としている。また、「見せる博物館」から「見る博物館」へ、「教える博物館」から「自ら学ぶ博物館」へをキャッチフレーズに、資料や研究データを通して観覧者と博物館が共に考えていこうという展示構成となっている。

プロローグ 大地に読む歴史

エントランスロビーの天井に届くようにそびえるのは、さいたま市大宮区の寿能泥炭層遺跡で確認された土層の模式断面である。各時代の遺物が出土状況に合わせてはめこまれ、各層の年代と各展示室で展開される展示内容とが対比できる歴史年表となっている。各展示室の入口には、この土層の断面をデザイン化した色別のパネルがあり、観覧の時間軸として利用できるようになっている。

第1展示室 旧石器～弥生時代

常設展示のはじまりは、埼玉の地にいつから人類が住み始めたかを考えるコーナーである。武蔵野台地や大宮台地を中心とした遺跡や出土遺物から旧石器文化を紹介する。内陸深く入りこんだ“奥東京湾”の周辺から出土した土器・漆器・木製品などから縄文人のくらしを表現している。大陸から伝えられた稲作や新たな技術はやがて東国にも達する。コメづくりのムラが営まれ、ムラとムラをたばねる首長が成長していく弥生時代を、東日本の出土遺物の比較や方形周溝墓などから表現している。

第2展示室 古墳時代

古墳時代は、ヤマト王権が生んだ前方後円墳などの大きな墓が日本列島の広い範囲を覆う交流関係のなかで展開する。埼玉県域でも3世紀中ごろには古墳が出現する。古墳時代中期には埼玉古墳群（特別史跡）が築造されるが、最初に築かれた稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（国宝）にはワカタケル大王（雄略天皇）に仕えた武人の歴史が記されている。ここからは、埼玉県域を含む東国がヤマト王権の軍事的基盤として重視されていたことがわかる。また、古墳時代には農具や、馬の導入がはかられ、技術の革新が進んだ時代であったことを伝える。

第3展示室 奈良～南北朝時代

「武蔵武士」を基本テーマとする。ここではまず、考古資料を用いて、律令制下における支配や人々の暮らしに関する展示を行う。平安時代に地方支配が動揺すると、各地で武装した領主層が台頭し始める。こうしたなか、県域では武蔵武士が登場する。その台頭過程や活躍ぶり、信仰や日常生活の様子などについて、工芸品・絵巻物・古文書・発掘資料などを使って紹介する。

第4展示室 美術展示室

埼玉県史の流れ（通史）の中では紹介しきれない優れた美術工芸品を、「博物館の中の小さな美術館」である本室で集中的に紹介する。様々な作品を通して美の世界の広がりを提示する。

第5展示室 室町～戦国時代

室町・戦国時代の北武蔵では、室町幕府と鎌倉府、戦国大名などの間で戦乱が繰り返された。ここでは、こうした「乱世」を生きた人々の姿をクローズアップする。歴史を彩る武将を輩出した古河公方足利氏・太田氏・北条氏・上杉氏の4家について、工芸品・古文書などを用いて紹介するとともに、

この時代の戦争を特徴づけた「足軽」と呼ばれる雑兵についても展示を行う。あわせて、中世における人々の暮らしと文化も紹介する。

第6展示室（展示ホール） 板碑

鎌倉から戦国時代末期にかけて盛んにつくられた板碑には、長い戦乱の中で暮らした人々の多くの願いが込められている。荒川上流で産出する緑泥石片岩を用いた武蔵の板碑は質量ともに全国一を誇り、武蔵武士の名が刻まれているものもある。ここでは、それらの中から我が国最大・最小のもの、最古のものをはじめ、県内の代表的な板碑を紹介している。また、ときがわ町の慈光寺の開山塔は、室町時代初期の建築様式を伝える我が国現存最古の木造宝塔といわれており、その復原資料を展示している。

第7展示室 江戸時代Ⅰ

江戸幕府のお膝元となった埼玉県域における支配の特色を、大名・旗本などの領主とその村支配の在り方、交通・宗教・文化などの制度を通して紹介する。領主については、川越・忍（行田）・岩槻・岡部に配置された大名と旗本に関する資料や城の模型を中心に展示している。村の支配については、年貢制度や、日常生活の規制などを高札や古文書により表現している。また、中山道や日光道中、利根川に設けられた関所の様子、幕府の寺院統制やキリシタン禁制、学芸、民間信仰などを取り上げている。

第8展示室 江戸時代Ⅱ

江戸時代の埼玉は、河川改修や用水路等の整備などにより、耕作地が増えて米の収穫量が増大した。そして、河川交通の発達とともに、各地で地場産業が盛んとなり、商品作物も作られるようになった。こうした様子を見沼代用水構造図や高瀬船模型・藍玉・紅餅・茶甕・古文書などを通して紹介している。また、幕藩体制が大きくゆらぎはじめる幕末の様子は、武州一揆や黒船来航などの資料によって紹介している。

第9展示室 明治時代～現代

明治期の埼玉は、政府の富国強兵の方針のもとでの殖産興業政策により、地場産業の近代化と産業基盤の整備を推進した。大正・昭和戦前期になると、大衆運動が盛り上がりを見せたが、昭和恐慌を契機にやがて長い戦争へと突入していき、県民・県土は疲弊した。敗戦後の埼玉は、産業・経済の復興をなしとげ、内陸型の工業県として目覚ましく発展した。ここでは、近現代埼玉の歩みを行政・産業・経済を中心に紹介するとともに、暮らしの変化の様子や、埼玉の地場産業なども取り上げている。

第10展示室 民俗展示室

民俗展示室は令和5年10月に全面的な展示替えを行い、「火と暮らし」というテーマで埼玉県における「火にまつわる民俗」を紹介している。展示は、「山の暮らし」「里の暮らし」「都市の暮らし」「現代の暮らしと火」の4部構成となっている。それぞれの地域・時代の暮らしと火とのかかわりについて、生業や祭り、火災に関する資料などを展示している。また、ミニテーマを設けて展示替えを行うコラム展示や、往時の農家の雰囲気再現した「農家のいろり」コーナーもある。

■特別展示室

企画テーマに沿った特別展などを開催する展示室である。年数回の特別展・企画展を開催し、毎回好評を博している。企画の内容は、より広い視点から埼玉の歴史と文化を比較・理解できるよう、県内だけでなく、関東あるいは全国を対象を広げてテーマを設定している。

■季節展示室

この展示室は、常設展示室と特別展示室を結ぶ場所に位置している。窓から野外の竹林・石灯籠を眺めることができ、安らぎの場となっている。小さな特集展示や特別展のサブ展示室としても活用

される。

■ゆめ・体験ひろば

「ゆめ・体験ひろば」は、世代間交流ができる体験学習施設で、それぞれに特色ある機能と設備を持つ4つのエリアで構成されており、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様なプログラムを提供している。

第1エリア 自由自在座

入館者が多様なハンズオン展示装置を自由に選択し、自在に楽しむ体験展示として、浮世絵版画の工程を体験する「浮世絵スリスリマシン」、歌舞伎などで用いられる擬音楽器を使って楽しむ「日本の音で遊ぼう」、江戸時代の提灯や行灯をのぞき窓から覗く「灯りの今昔」、ヒモを引いて目や口を動かし複雑な仕掛けを理解する「人形芝居」などを設置している。

また、「昔のくらしと道具」のブースは、昭和30年代の農村の住居・町の住居の食卓や道具などの展示を見ながら、昔の生活道具を学べるコーナーとなっている。

第2エリア 学び文庫

本棚には、埼玉県にまつわる本や図録、歴史・民俗・芸術に関する一般書籍、子ども向けの学習まんがなどが並んでおり、調べ学習のための参考図書をゆったり閲覧することができる。開館時間中はいつでも利用できる。

第3エリア ものづくり工房

「ものづくり工房」では、郷土に伝わる伝統文化のわざとところを、体験を通して学ぶことができ、藍染めや江戸組紐といった伝統工芸や地場産業をテーマとしたものづくりメニューを、常時数種類体験することができる。通常体験メニューとは別に、藍染めストールや江戸組紐帯締めなど、成人対象の本格的な特別体験メニューも提供している。

第4エリア 昭和の原っぱ

屋外広場に、木製電柱や土管、ホーロー看板やスバル360などのディスプレイにより、昭和30～40年代のロケーションを再現したエリアが「昭和の原っぱ」である。

ここでは、ベーゴマやけん玉、フラフープといった昔懐かしい遊び体験コーナーや駄菓子屋を常設するとともに、季節に応じて、「射的遊び」や「ポン菓子作り実演」などのノスタルジックイベントも開催する。

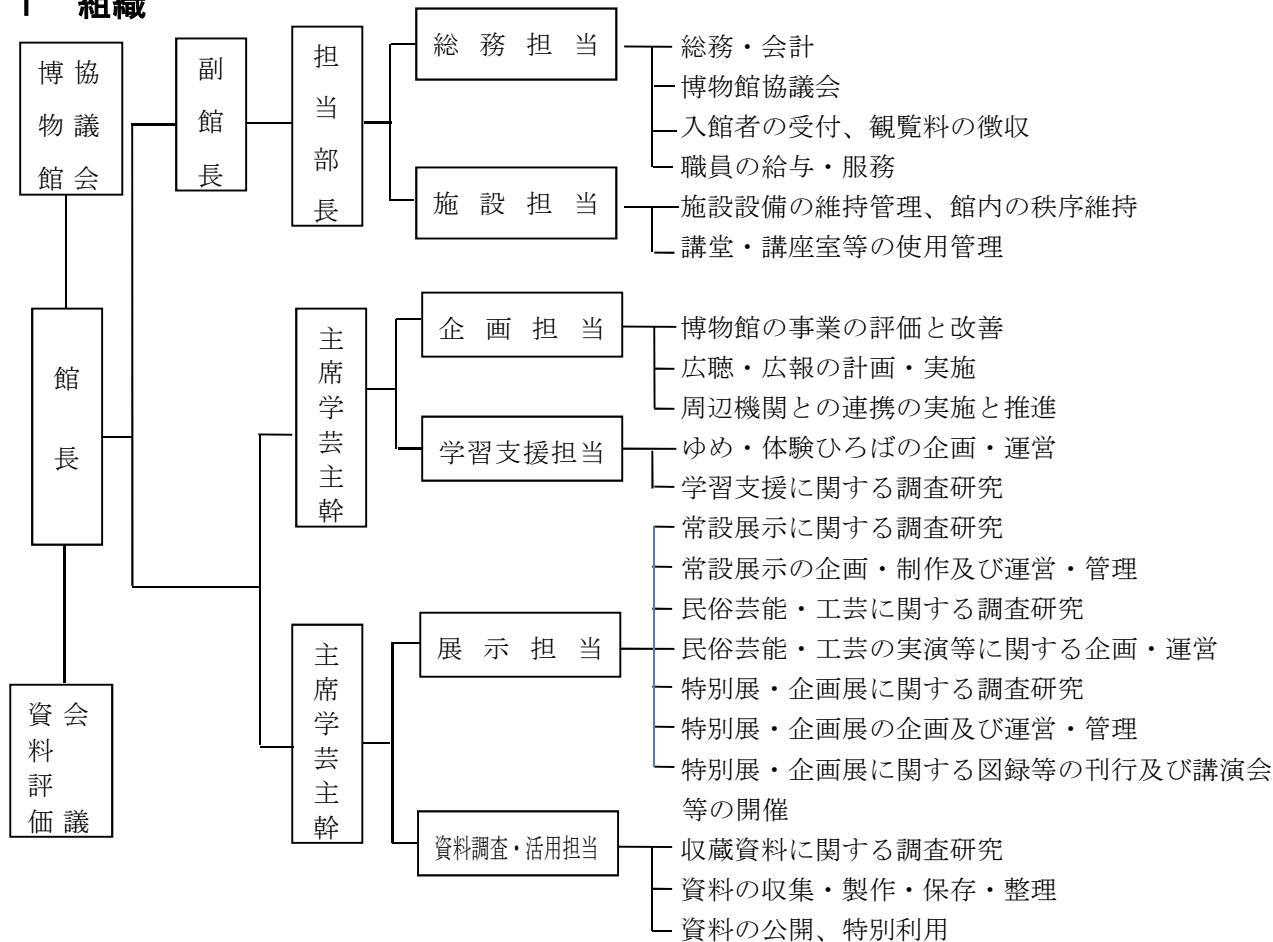
人それぞれに懐かしくもあり、新鮮でもある「昭和の原っぱ」は、かつてガキ大将で鳴らした団塊の世代の大人たちと、IT世代の現代っ子たちが、遊び文化の継承を通じて世代間交流ができる空間を提供している。

このように、特色ある4つのエリアから成る「ゆめ・体験ひろば」では、入館者はもとより、専門分野を担う博物館クルーや体験ボランティアなどが運営のサポートにあたることにより、「だれもが主役になれる博物館」づくりを進めている。

また、各施設は、ユニバーサルデザインに基づき、「誰にもやさしい博物館」として、安全に楽しく見学や体験ができるようになっている。

組織及び職員構成（令和6年4月1日現在）

1 組織



2 職員名簿

職名	氏名	職名	氏名
館長	栗岡 真理子		
◎総務、施設担当		[学習支援担当]	
副館長	細野 仁	担当課長	石川 麻裕子
担当部長	小久保 達夫	担当課長	後藤 陽翔
[総務担当]		学芸員	尾崎 沙羅
主任	森 寿子	学芸員	中島 萌
主任	富田 瑞季	学芸員	小松 和史
主任	藤本 貴博	学芸員	原 綾音
主任	国崎 智稔	○展示、資料調査・活用担当	
会計年度任用職員	蝦名 能稔	主席学芸主幹	井上 かおり
[施設担当]		[展示担当]	
主任	真中 博行	学芸主幹	池田 伸子
主任	西村 晃	主任学芸員	戸邊 優美
主任	関根 嵩弥	学芸員	西川 真理子
○企画、学習支援担当		学芸員	木村 遼
主席学芸主幹	内田 幸彦	学芸員	井上 海
[企画担当]		学芸員	別所 鮎実
担当部長	金子 雅則	学芸員	黒田 千尋
主任学芸員	服部 武薫	学芸員	佐藤 夏美
主任	大見 薫	学芸員	片山 健太郎
主任	高橋 優美	会計年度任用職員	篠崎 彩乃
		[資料調査・活用担当]	
		主任学芸員	大橋 毅
		学芸員	濱田 翠
		学芸員	駒見 敬志
		学芸員	田口 志織

3 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員名簿

任期 令和6年5月26日から令和8年5月25日まで

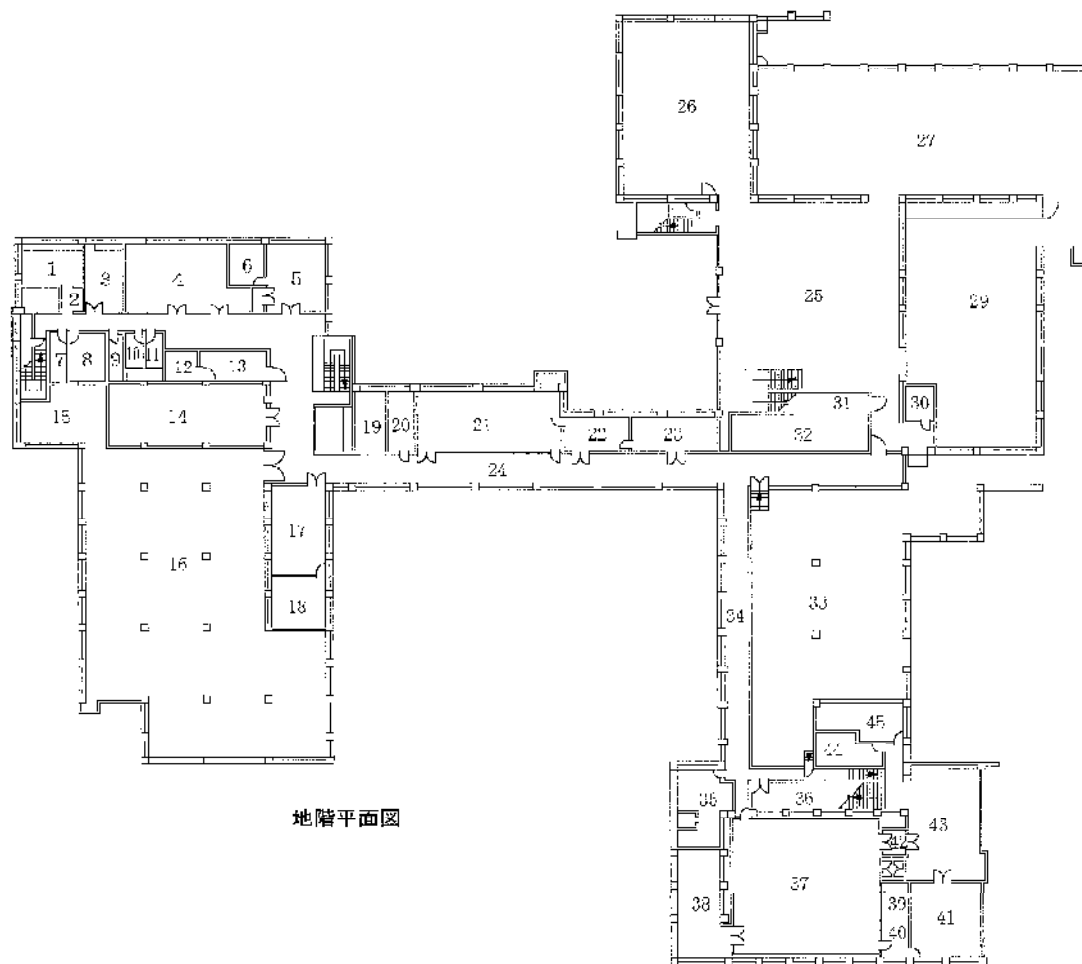
(選出区分別 敬称略 職名等は令和6年7月1日現在)

選出区分	ふりがな 氏名	職名等
学校教育関係者	しのだ かなえ 篠田 かなえ	熊谷市立中条中学校長
	たなか たつや 田中 達哉	県立鳩山高等学校長
	たなか みちこ 田中 理子	県立狭山特別支援学校長
社会教育関係者	ふかさわ かつみ 深澤 克巳	一般社団法人埼玉県子ども会連合会入間地区支部長
	まえかわ やすえ 前川 康恵	埼玉県地域婦人会連合会理事
家庭教育関係者	えだ あきこ 江田 明子	埼玉県家庭教育振興協議会理事
	なかむら としこ 中村 淑子	さいたま市立仲町小学校学校地域連携コーディネーター
学識経験者	あきやま じゅんこ 秋山 純子	(独) 国立文化財機構東京文化財研究所 保存科学研究センター保存環境研究室長
	い で あさお 井出 朝男	さいたま市北区植竹町1丁目自治会長
	かさはら たかし 笠原 孝志	元国家公務員
	かわた じゅうぞう 河田 重三	渋沢栄一記念館資料解説員
	きくち けんさく 菊池 健策	神奈川大学非常勤講師 埼玉県文化財保護審議会委員
	しみず ひろゆき 清水 裕幸	会社員
	なかむら だいすけ 中村 大介	埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授
	のせ もとこ 野瀬 元子	大東文化大学文学部教授
	みずかみ かよこ 水上 嘉代子	女子美術大学非常勤講師 埼玉県文化財保護審議会委員
	よねやま しろう 米山 士郎	埼玉新聞社編集局ふるさと報道部部長

施設設備

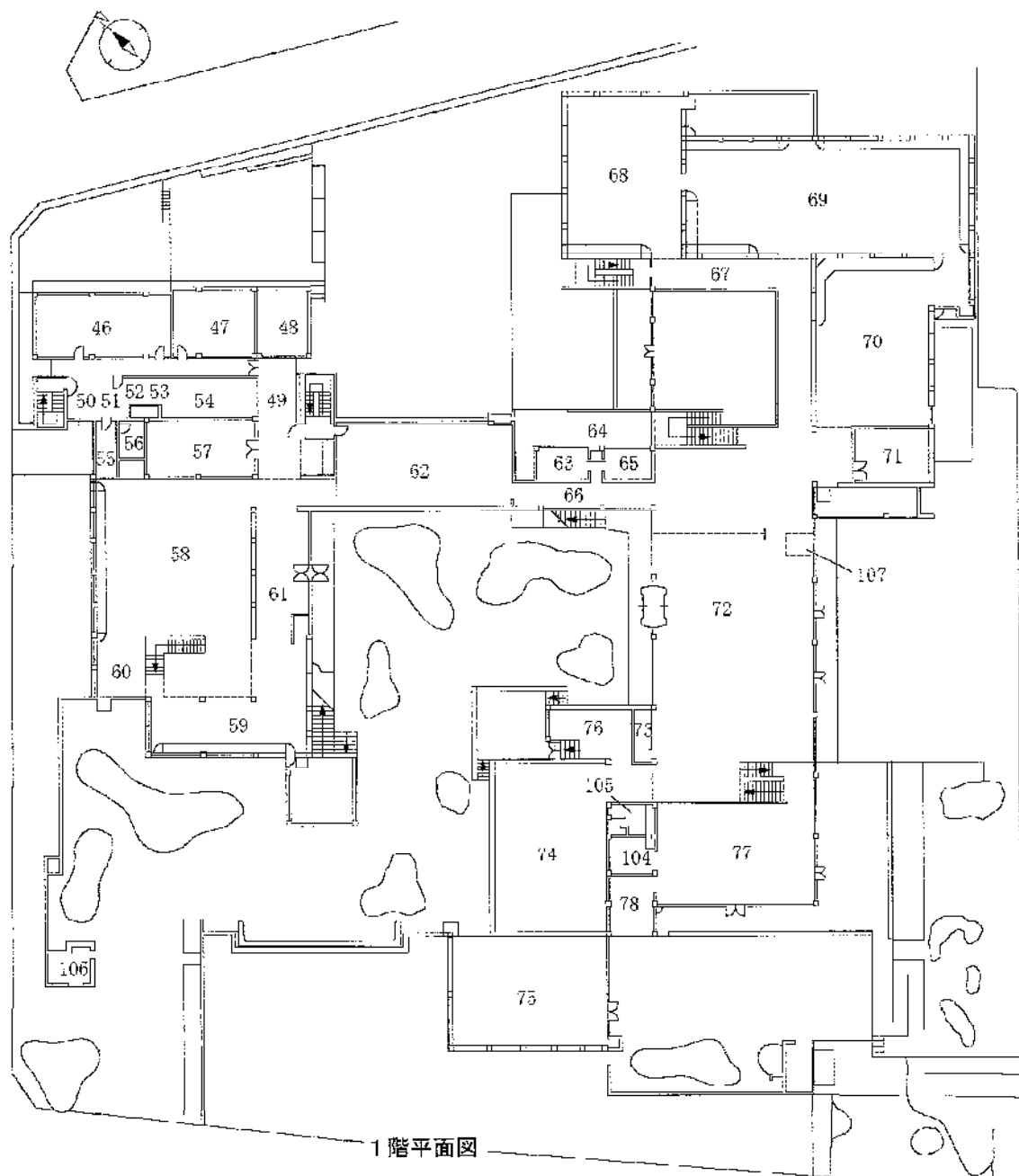
■敷地面積 12,753.71㎡ 延床面積 11,363.93㎡

各室配置図及び各室面積表

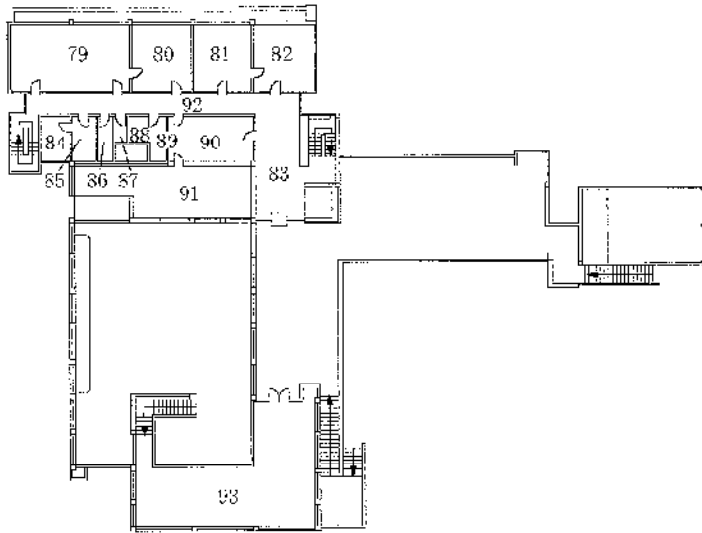


地階平面図

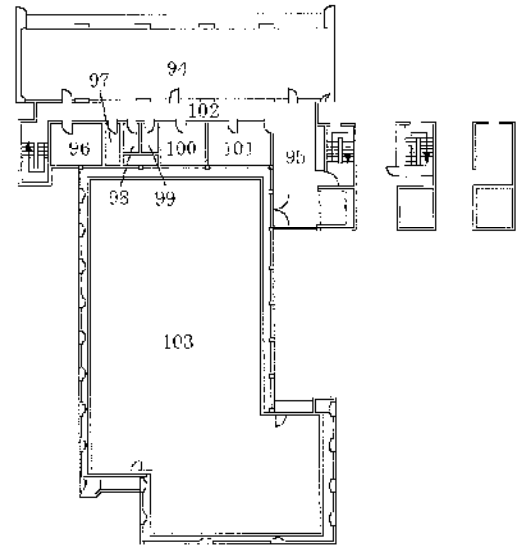
番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
1	休養室	35.84	16	収蔵庫 2	604.80	32	倉庫 1	47.52
2	湯沸室	7.50	17	図書室 2	52.80	33	空調機械室 1	431.44
3	ボランティアルーム	30.24	18	炭酸ガスボンベ室	33.60	34	廊下	94.32
4	資料保存室	79.20	19	消火水槽	21.60	35	旧食堂事務室	43.92
5	スタジオ	40.32	20	消火ポンプ室	14.40	36	旧食堂倉庫	58.32
6	暗室	17.28	21	変電室	86.40	37	講堂	227.52
7	浴室	9.00	22	中央監視室	23.76	38	講堂準備室	51.84
8	控室	11.70	23	発電機室	32.40	39	音響調整室	10.56
9	男子便所	9.00	24	廊下	373.72	40	湯沸室	18.48
10	女子便所	6.12	25	常設展示室 6	367.74	41	講座室	60.48
11	掃除用具室	6.12	26	常設展示室 7	237.60	42	講堂前室	13.20
12	殺虫消毒室 1	10.26	27	常設展示室 8、9	450.72	43	講堂前ロビー	94.56
13	殺虫消毒室 2	28.50	29	常設展示室 10	320.64	44	男子便所	20.12
14	空調機械室 2	94.80	30	常設展示準備室 2	6.00	45	女子便所	28.60
15	収蔵庫 3	46.50	31	常設展示準備室 3	16.50			



番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
46	管理事務室	108.00	59	特別展示室1	237.60	71	常設展示準備室1	54.06
47	車庫	64.60	60	休憩室	43.20	72	エントランスロビー	712.80
48	荷扱室	43.20	61	特別展示室エントランスビ-	116.64	73	コインロッカー室	14.40
49	荷解広間	63.36	62	季節展示室	195.84	74	自由自在座	207.36
50	管理棟エントランスビ-	26.88	63	客用男子便所	14.40	75	ものづくり工房	237.60
51	男子便所	9.00	64	みんなのトイレ	7.02	76	ゆめ・体験ひろば準備室	54.48
52	女子便所	6.12	65	客用女子便所	17.18	77	休憩コーナー	207.60
53	湯沸室	3.42	66	廊下	52.48	78	幼児コーナー	37.08
54	荷解梱包室	53.55	67	ギャラリー	144.96	104	自動販売機コーナー	18.47
55	警備員室	16.80	68	常設展示室4、5	237.60	105	倉庫2	8.82
56	救護室	13.20	69	常設展示室2、3	427.68	106	旧正門警備員室	17.55
57	特別展示準備室	72.00	70	常設展示室1	273.18	107	インフォメーション	-
58	特別展示室2	324.00						



2階平面図



3階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡		
79	会議室	86.40	92	廊下	66.24	延床面積	11,363.93 ㎡
80	資料熟覧室	43.20	93	特別展示室3	151.20		
81	応接室	43.20	94	学芸事務室	226.80	・展示部門	4,984.38 ㎡
82	館長室	43.20	95	ロビー	51.84	展示室	(3,711.96 ㎡)
83	ロビー	51.84	96	副館長室	26.88	その他	(1,272.42 ㎡)
84	電話交換機室	16.53	97	男子便所	9.00	・収蔵部門	1,416.90 ㎡
85	男子更衣室	10.56	98	女子便所	6.12	・管理部門	4,962.65 ㎡
86	男子便所	9.00	99	湯沸室	3.42	その他	
87	女子便所	6.12	100	調査研究室2	21.12	建築面積	4,529.57 ㎡
88	湯沸室	3.42	101	調査研究室1	26.88	内訳	
89	女子更衣室	10.32	102	廊下	66.24	・本館	4,512.02 ㎡
90	図書室	38.40	103	収蔵庫1	712.80	・旧正門警備員室	17.55 ㎡
91	書庫	94.20					

資料

1 年度別当初予算一覧

単位：千円

年 度	管理運営費	展示事業費	ゆめ・体験 ひろば 事業費	博物館 資料収集 管理費	常設展示室 展示設備 更新事業費	計
平成21	23,319	26,627	6,200	4,292	—	60,438
22	22,633	27,941	5,830	4,135	—	60,539
23	23,194	36,829	5,436	4,456	—	69,915
24	24,395	33,326	8,646	4,268	—	70,635
25	20,647	41,305	6,233	3,991	—	72,176
26	22,855	39,144	6,327	4,032	—	72,358
27	19,891	50,201	5,881	4,127	—	80,100
28	23,303	37,956	5,886	4,215	—	71,360
29	21,193	43,568	5,888	4,281	—	74,930
30	21,055	37,191	5,752	4,331	5,500	73,829
31 令和元	25,072	38,914	5,949	4,461	5,552	79,948
2	21,954	48,307	4,459	6,241	5,603	86,564
3	25,197	48,802	4,250	5,921	5,332	89,502
4	23,409	40,343	4,065	5,198	5,000	78,015
5	25,561	36,014	3,574	5,398	5,000	75,547
6	25,660	51,551	4,539	5,564	5,000	92,314

2 入館者数の推移

年 度	開館日数	利用人員	1日平均 利用者数	備 考
平成21	184日	90,477人	492	9月14日～2月15日工事休館
22	208日	93,138人	448	11月15日～3月16日休館
23	305日	133,160人	437	
24	310日	126,886人	409	
25	311日	119,953人	386	平成25年7月1日から高齢者の観覧料減免措置廃止
26	310日	135,221人	436	
27	308日	146,203人	475	
28	310日	138,209人	446	
29	309日	142,566人	461	
30	315日	119,103人	378	
31 令和元	284日	104,292人	367	令和元年10月12日～13日台風のため休館 令和2年2月29日～3月31日感染拡大防止のため休館
2	186日	23,424人	126	令和2年4月1日～5月24日感染拡大防止のため休館 令和2年12月24日～3月21日感染拡大防止のため休館
3	306日	58,333人	191	令和3年8月26日～8月30日感染拡大防止のため休館
4	212日	62,125人	293	令和4年12月5日～令和5年3月31日工事休館
5	147日	44,971人	306	令和5年4月1日～令和5年10月13日工事休館

3 所蔵資料数(令和6年3月31日現在) 127,262点(+89点)

絵画	(+7点) 1,588点	工芸	1,485点	彫刻	36点	書跡	182点
歴史	(+65点) 49,186点	民俗	(+17点) 68,728点	考古	6,024点	模型	33点

4 特別展・企画展一覧

年度	春	夏	秋	冬
昭和 46			(開館記念特別展) 埼玉百年史	
47		縄文の美となぞ	アイヌ文化展	関東の鉄仏
48		寺内萬次郎展	台湾の民具	昔の旅
49		足軽胴と陣笠	東北の美術	小村雪岱展
50	原始の世界	埼玉景勝30選展	齊藤与里展	
51	永田二郎展	埼玉の張り子展	さいたまの肖像展	近代埼玉の書
52	中野四郎作品展		戦国武将展	はにわ展
53	埼玉のやきもの	近世埼玉の文人展	奥原晴湖展	
54	弁当箱にみる用と美		絵馬展	胎内納入品をもつ仏像
55	大久保喜一展		文化財保護法施行30周年記念埼玉 の指定文化財展－美術工芸品	板碑展
56		編む	江戸のよそおい	木と漆の原始工芸 －寿能泥炭層遺跡出土品展－
57			古代東国の薨	
58			(新装開館記念特別展) 武蔵武士	荒川の漁具・漁・祖おやの譜録
59	浮世絵	埼玉・岩手文化交流展 北武蔵 杖刀人とその時代	埼玉・岩手文化交流展 縄文の風景－大地と呪術－	江戸の風俗 －絵筆が語る町人文化－
60	宿場	激動の昭和	(外) メキシコの民芸 －太陽と神々の匠たち－	かお
61	古代の祭祀	(外) 古代メキシコ・オルメカ 文明展	海上之邦おきなわ	武蔵ゆかりの武器・武具
62	秩父－繭そして信仰－	収蔵品展	(外) 埼玉県・山西省友好県省 締結5周年記念－山西省文物展	遊びとおもちゃ
63	日本のあけぼの	収蔵品展	さいたまの円空	古墳－かざり大刀の世界－ 世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－
平成 元	世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－ 比企－丘陵に生きた人々の暮らし と文化－	収蔵品展	(外) クイーンズランド文化展 －姉妹州の4万年の歴史－	酒の文化史
2	さいたまの海 －縄文人からの伝言－	収蔵品展	南蛮の美術 －異国にあこがれた武将たち－	お金百態－寄託資料 埼玉銀行コ レクションを中心－
3	音のかたち－日本の音を探る－	収蔵品展	(開館20周年記念展) さいたまの名宝 国宝・重要文化 財	喫茶の考古学－茶の湯再発見－ かたどられた祈り－木・紙・藁の フォークロア
4	かたどられた祈り－木・紙・藁の フォークロア	江戸のからくり夢空間－近代科学 事始	はなのいろはうつりにけり な・・・歌仙絵の世界	鯉絵－鯉が踊れば世も動く－ つぼ・かめ・すりばち－中世のや きものと暮らし
5	つぼ・かめ・すりばち－中世のや きものと暮らし	河童VS天狗 －人と妖怪の交流史－	甦る光彩－関東の出土金銅仏－	奉納された道中アルバム －絵馬にみる寺社参り－
6	相撲－むかしきけちゝぶ殿さへす まふとり－	子育ての原風景 －カミの子からムラの子へ－	検証！関東の弥生文化 －一粒の米が変えたくらし－	最新出土品展 さいたま地中からのメッセージ
7	観・天・望・気 －お天気の世界－	最新出土品展	古代東国の渡米文化	美の匠たち－日本刀をめぐる“わ ざ”の世界－

年度	春	夏	秋	冬
8	美の匠たちー日本刀をめぐる“わざ”の世界ー	最新出土品展	太平記絵巻の世界	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～
9	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～	最新出土品展	女帝明正天皇と将軍家光～松平信綱とその時代～	人形と張り子 桜花爛漫
10	桜花爛漫	最新出土品展	女性はにわーその装いとしぐさー	さいたまの鉄道
11	さいたまの鉄道	さいたま最新出土品展 '99	アイヌの四季と生活 ー十勝アイヌと絵師・平沢屏山ー	さいたまの名宝シリーズ2 ゆ～お風呂の文化史～
12	ゆ～お風呂の文化史～		ー象がゆくー將軍吉宗と宮廷 雅	発掘された日本列島2000・さいたま出土品展
13		発掘調査速報展	(開館30周年記念展) 埼玉の名宝シリーズ3ー神楽の風景ー	めざせ日本の近代化 ～日本の産業育てた渋沢栄一～
14	KEMARIー蹴鞠ー	発掘調査速報展	開設四百年 中山道ー武州往来ー	
15		埼玉の名宝シリーズ4 めざめる古代ー新指定の考古資料ー	平林寺	銀座復興絵巻
16	銀座復興絵巻	埼玉県発掘調査速報2004	国宝太刀・短刀と太平記絵巻	羽子板の美とわざ 年中行事絵巻
17	年中行事絵巻	あの遺跡この遺物ー埼玉発掘50年史ー	刻まれた鼓動 ～歓喜院聖天堂の彫刻建築～	
18	芸能絵巻～舞い踊り囃す～	天下をまわって1300年 お金がめぐる社会史	由来 伝来 名刀の一千年	祈りの風景 埼玉の絵馬
19	祈りの風景 埼玉の絵馬	博物館発→ちいさな旅ー埼玉遊覧案内ー	お伊勢さんと武蔵	日本の色彩～藍・紅・紫～
20		埼玉サッカー100年	名もなき至宝ーうけつがれし重要有形民俗文化財ー	誕生 武蔵武士
21		いただきます～食の文化史～	出張博物館in深谷	雑兵物語の世界
22	雑兵物語の世界	ヒーロー参上	仏教伝来 埼玉の古代寺院	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道
23	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道	あそび漫遊	(開館40周年記念展) 円空 ところを刻む ー埼玉の諸像を中心にー	大名と藩-天下泰平の立役者たち-
24	大名と藩 -天下泰平の立役者たち-	にほん美術夏期学校	職人のわざとカタ ー商品の誕生ー	埼玉歴史街道 I -『新編武蔵風土記稿』の世界-
25	発掘された木の道具	絵で語る埼玉の民話 -池原昭治 童絵の世界-	狩野派と橋本雅邦 -そして近代日本画へ	圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～
26	渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 -Attic Museum-	にっぽん歴史街道 江戸の街道(みち) ～絵図でたどる宿場と関所～	甕の鉄剣	埼玉の自由民権
27	氷川神社と大宮公園	戦国図鑑 ーCool Basara Styleー	慈光寺 国宝 法華経一品経を守り伝える古刹	
28	蔵出し資料 ー館有コレクションの優品ー	高麗郡1300年 ー物と語りー	徳川家康 ー語り継がれる天下人ー	祝いの民俗 ーハレの造形ー
29	縄文の空間 ー暮らしと願いー	くらべる古美術 ー見て考える美術のひみつー	上杉家の名刀と三十五腰	明治天皇と氷川神社 ー行幸の軌跡ー
30	田んぼ ー埼玉、人と水の風景ー	古文書 大公開! ーみる・よむ・しらべる埼玉ー	ダムと変わる! 私たちの暮らし!	埼玉の官衙 ー律令時代の“お役所”ー
31 令和元	東国の地獄極楽	北沢楽天と時事漫画	子ども/おもちゃの博覧会	縄文時代のたべもの事情
2	武蔵国の旗本 (感染拡大防止のため全日程休館)	太平記絵巻 (感染拡大防止のため開催延期)	新収集品展2018・2019	銘仙 (感染拡大防止のため全日程休館)
3	(NHK大河ドラマ特別展) 青天を衝け ～渋沢栄一のまなざし～	太平記絵巻 ー描かれた武士の世界ー	(埼玉150周年及び開館50周年記念展) 埼玉考古50選	お茶を楽しむ
4	埼玉美術英名録 共催展 昌国寺	発掘された日本列島2022 地域展「埼玉の国指定史跡」	銘仙	

年度	春	夏	秋	冬
5	(出張展示 in 深谷) 書画から見よう 栄一と惇忠		縄文コードをひもとくー埼玉の縄文土器とその世界ー	
6	鉢形城主 北条氏邦	お金を出して！ーお金のふしぎ探検隊ー	鷹のおでましー鷹狩の美術ー	はたらく装いのフォークロア

利用案内

◆展示室等の観覧について

1 開館時間

午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

※ 7月1日から8月31日までは、午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

2 休館日

- (1) 月曜日（ただし祝日及び振替休日、8月5日、3月24日は開館）
- (2) 年末年始（12月29日から1月1日まで）
- (3) 館内消毒及び展示替えのため休館（6月3日から6月10日まで及び9月9日から9月10日）

3 展示解説

- (1) 各展示室では、ボランティアが御希望に応じて解説・案内します。
- (2) 団体見学の場合は、10日前までにお申し込みください。

4 観覧料

- (1) 常設展示：

一	般	300円（200円）	※（ ）内は団体（20人以上）料金
	高校・学生	150円（100円）	
- (2) 特別展・企画展開催期間中は別に定めます。
- (3) 次の方は無料で観覧できます。
 - ① 義務教育修了前（中学生以下）の方
 - ② 障害者の方（身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている方）
 - ③ 上記障害者の介護の方（障害者一人につき一人）※ 65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により、平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。

5 観覧料の免除とその手続き

- (1) 次の場合は、「観覧料等減額（免除）申請書」に、実施計画書等を添付の上、観覧日の10日前までに提出していただくことにより観覧料を免除します。
 - ① 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する幼稚園、保育所園、小・中学生の引率の方
 - ② 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する高校・大学生・各種学校等の生徒とその引率の方
 - ③ 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、他の地方公共団体が開催する歴史と民俗の博物館の資料に関する事業（講演会、講習会、研究会等）を企画した主催（引率）の方
 - ④ 埼玉県又は埼玉県教育委員会が開催する全国会議・ブロック会議・研修会等に参加し、会議又は研修会の日程の一環として観覧する方
- (2) 次の場合は、視察依頼書を提出していただくことにより観覧料を免除します。
 - ① 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、地方公共団体又は市町村等関係機関関係者で、歴史と民俗の博物館の事業及び施設設備の視察を目的とした観覧
- (3) 次の場合は、インフォメーションにお申し出いただくことにより観覧料を免除します。

- ① 教育課程に基づく学習活動のための下見をする方
- ② 歴史と民俗の博物館に資料を寄贈、寄託している方
- ③ 歴史と民俗の博物館が発行する優待券、招待券、ボランティア登録証をお持ちの方

6 問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 総務担当
 電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆講堂・講座室について

1 施設の概要

- (1) 講 堂 面積 227.52㎡ 収容人員 162人
- (2) 講座室 面積 60.48㎡ 収容人員 30人

2 利用料金

種 類	項 目 (貸 出 単 位)	金 額
施 設 使 用 料	講 堂 (1 時 間)	630円
	講 座 室 (1 時 間)	160円
附 属 設 備 使 用 料	音響設備 (1 回)	110円
	ビデオプロジェクター (1 回)	840円

- (1) 附属設備については、利用開始からその日の利用終了までで1回とします。
- (2) 使用料が減額又は免除になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

3 注意事項

- (1) 次の場合、施設の御利用はできませんので、御了承ください。
 - ① 博物館の管理上支障があると認められるとき。
 - ② 公共の福祉を阻害するおそれがあると認められるとき。
 - ③ その他博物館の設置の目的に反すると認められるとき。
- (2) 施設利用を許可するにあたり、必要がある場合は、条件を付したり、制限を加えたりすることがあります。
- (3) 施設を利用できるのは、開館日の開館時間内のみです。
- (4) 利用時間には、準備及び片付けの時間も含まれます。
- (5) 利用を終了したときは、施設の状態を速やかに利用前の状態に戻してください。
 施設や設備を損傷したり、備品等を紛失したり損傷したりしたときは、それを修理し、損害を賠償していただきます。
- (6) 附属設備、長机、予備椅子を利用したい場合は、事前に申し出てください。
- (7) 研究会等で図録等を販売しようとするとき、又は特別の設備等を利用しようとするときは、事前に申し出てください。
- (8) 講堂・講座室は地下1階にあり、エレベーター、スロープ等はありません。

階段昇降機が設置されておりますので、車椅子で御利用になる場合は、職員が操作いたします。
遠慮なくお申し出ください。

(9) 展示室は有料となりますので、展示室を御利用の際は観覧券をお買い求めください。

4 利用申込み

- (1) 原則として、利用日の属する月の3か月前の初日（その日が休館日である場合にはその翌日）から、利用日の7日前（その日が休館日である場合にはその前日）までに、埼玉県立歴史と民俗の博物館事務室まで「施設等利用（変更）許可申請書」を提出してください。空き状況は電話で確認することができます。
- (2) 予約及び申請の受付時間は、開館日の開館時間内のみです。
- (3) 申請に基づき、「施設等利用（変更）許可書」及び使用料の「納入通知書」を発行します。
- (4) 使用料については、「納入通知書」により、最寄りの金融機関等で納入期限までに納入してください。

5 申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 施設担当
電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆資料の写真原板使用及び資料写真撮影・熟覧について

当館の所蔵資料で写真原板があるものについては有料で御利用いただけます。
また、保存上などで問題がない資料については、写真撮影・熟覧の取扱いをいたします。

申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964

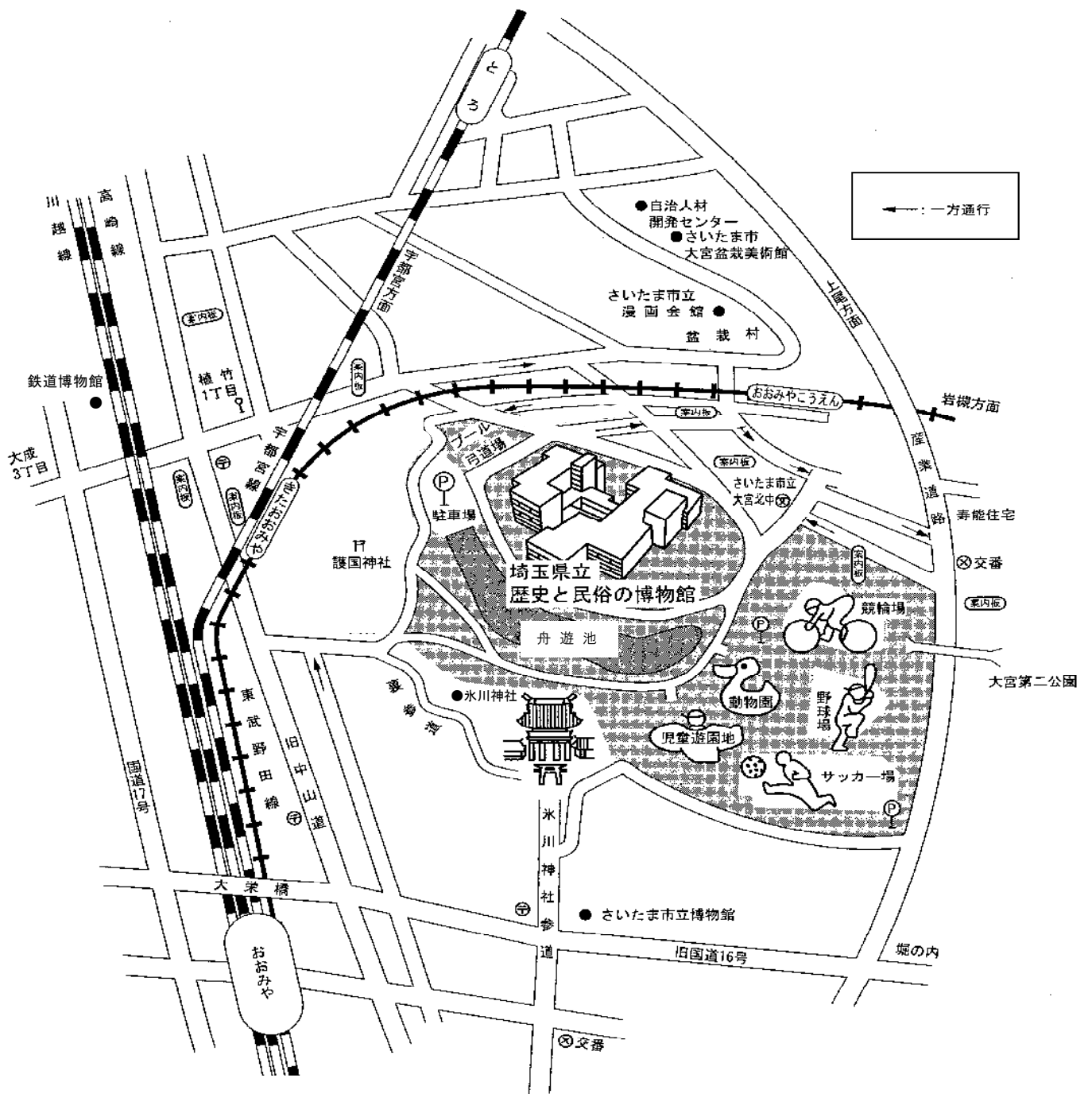
◆資料の寄贈受入について

資料の寄贈希望がある場合は、資料調査・活用担当に御一報ください。事前調査をしたのち、書類手続きを行います。その後、資料評価会議に諮り、審議したのち正式に受け入れます。

※ 当館の資料受入基準から外れるもの、すでに同様の資料が収蔵されている場合などは、事前調査をすることなくお断りする場合がありますので御了承ください。

申込み・問合せ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964



◆交通案内

東武アーバンパークライン<野田線> 大宮公園駅下車 徒歩5分
 JR宇都宮線 土呂駅下車 徒歩18分



埼玉県のマスコット コバトン

令和6年度 埼玉県立歴史と民俗の博物館要覧（第19号）
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL 048-645-8171（学芸）
TEL 048-641-0890（総務・施設）
FAX 048-640-1964
ホームページURL <https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

発行：令和6年7月